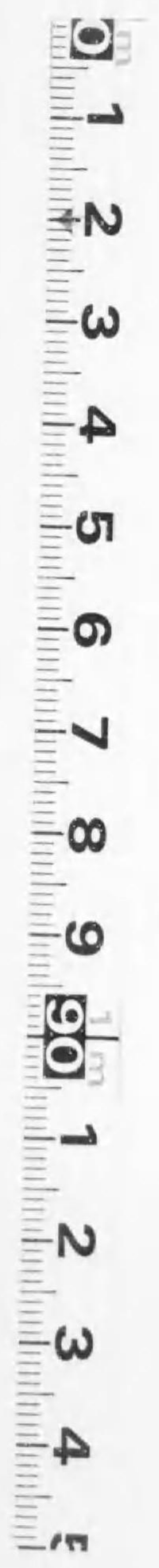


514
97



始



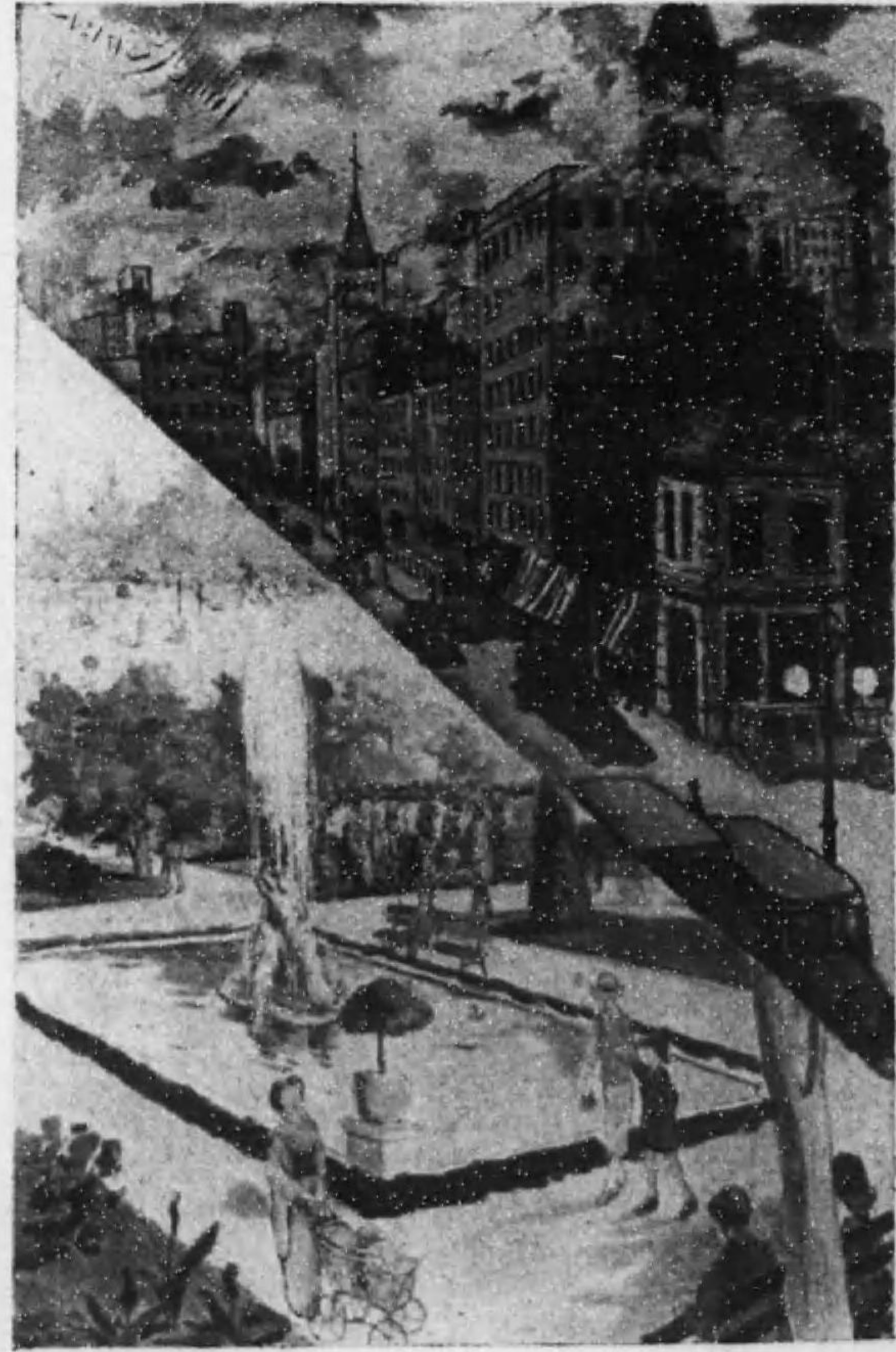
574-97



東京市公園概観

大正
12. 5. 18
寄贈

市寄贈本



園公と市都

序

東京市には二十八箇所、約四十二萬八千餘坪の公園があつて、毎年少からぬ経費を使つてゐる。都市に公園の必要なる事は、恰も人體に肺臓の必要なると同じである。而して都會が發達すればする程、人口は彌が上にも増加する一方であるので、遂には吾々が自由に起居すべき寸分の隙間もなくなつて、極めて不自由な生活をしなければならなくなる。其の結果、吾等の生活に缺く可らざる清らかな空氣、透つた光線も、自然に悪化汚染して、疾病を招く事が多く、生命も短くなり、勢ひ都市全體の活動力を鈍くすることになる。

茲に公園の必要が起り、運動場も要ることになれば抵抗力の薄弱な児童の爲めには特に自由な遊戯をなさしむるに適當な、安全な場所、即ち遊園も必要になる。

文明は自然を征服して、物質萬能の都市を造つたが之を美化して、品位ある都市と爲し、意義ある文化生活に入り度いと云ふ希望から、都市は自然の縮景である公園を配置して、吾々の藝術的慾求を満たし、生活を樂ましむると共に、吾々の都市の品位と、其の崇高な美觀を誇らうとするのである。

都市生活者の、公園に依つて受くる利益は數ふるに違がない。其の直接的のものとしては、第一に良好なる散策逍遙の

地となり、第二に生存競争場裡に戰ふ人々の爲め無上の休養地となり、第三に民衆の共同的團樂の場所となり、第四に自然的風色を備ふる觀賞地ともなり、第五に何人にも自由な運動の場所となり、第六に児童の爲めに、安全なる遊戯の場所となり、第七に「自然界に遠かる都會人、殊に児童の爲めに」自然界の智識を與ふる教育場ともなるのである。

之れが間接的のものとしては、樹林泉水を設備した公園を配置することによつて、風致の核心を作るのみならず市内に於ける空氣の汚染を防ぎ、或は災害に對する避難所ともなり、自然に思想上にも影響すること深く

利用の共同に依つて社会的。生活。の訓練に資することも出来れば、進んで民衆教育思想指導の教室ともなるのみならず自ら現代社會の安全瓣ともなる。若し史蹟又は天然紀念物の場所をも公園として利用すれば、國寶を永遠に保存せしむる許りでなく、趣味の向上に資し、國民教育上に貢献する所も尠くはない。

大正十二年春日

東京市公園課

東京市公園概観目次

東京市の公園	一	頁
○沿 革	一	
○公園名と其の所在	八	
○公園の種別	一〇	
公園の様式	一四	
公園の施設	一五	
○公園の植物	一六	
公園の動物	一九	
運動施設	二〇	

庭園的施設……………三

休養施設……………三

公園の建築物……………二五

公園の音楽……………二六

史蹟と天然紀念物……………二七

銅像と碑石……………三〇

神社と佛閣……………三三

各公園の案内……………三四

日比谷公園——麹町公園——清水谷公園——虎ノ門公園——千鳥ヶ淵公園——坂本公園——兩國公園——彌生町公園——淺草橋公園——數寄屋橋公園——芝公園——愛宕公園——乃木公園——白山公園——江戸川公園——湯島公園——お茶ノ水公園——下谷公園——淺草公園——今戸公園——待乳山公園——綠町公園——若宮公園——

公園の現在と其の將來……………六六

附録

深川公園——飛鳥山公園——井ノ頭恩賜公園——四谷公園——舊安田邸公園

東京市公園面積……………七一

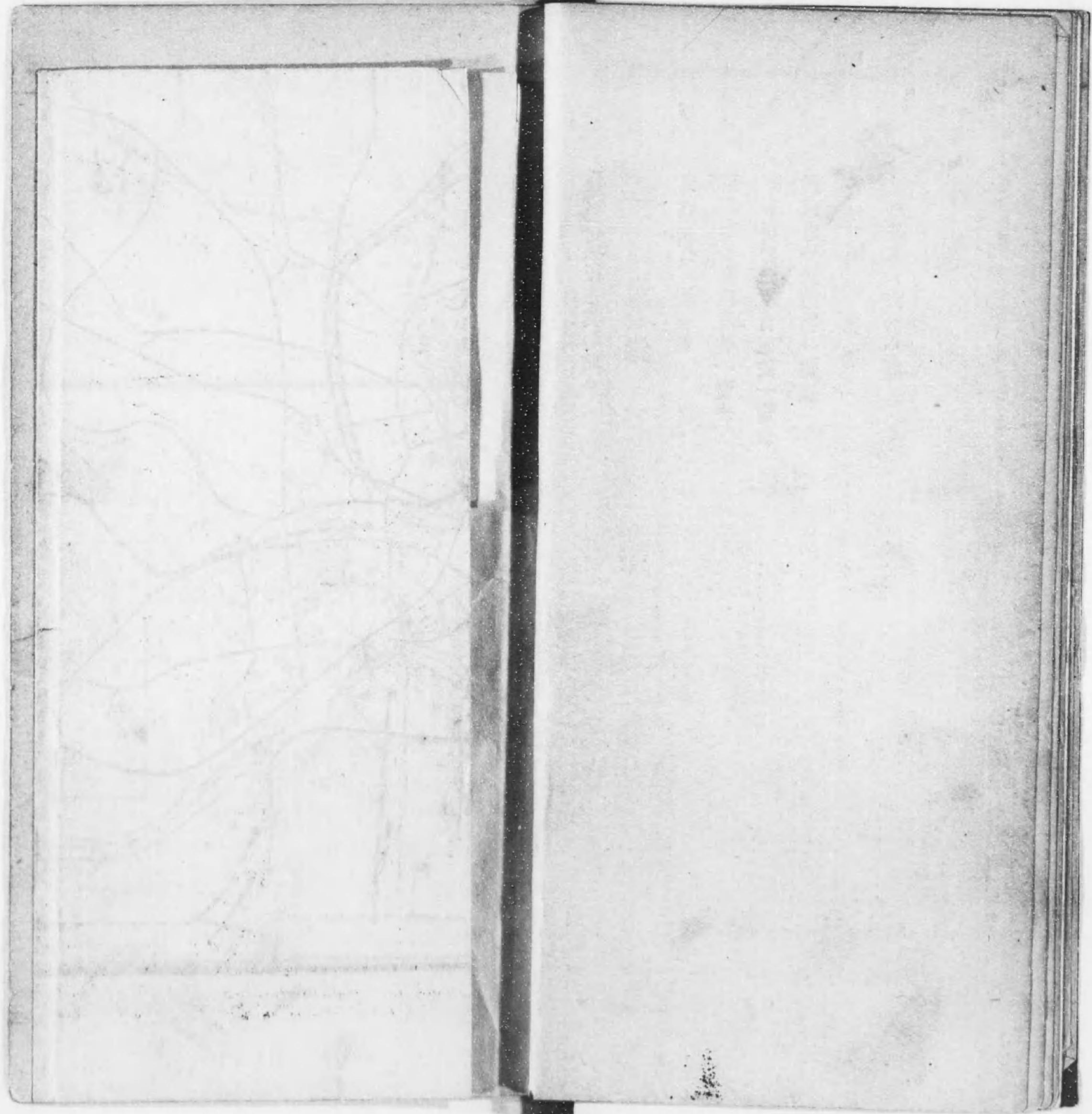
東京市公園建設物一覽表……………七三

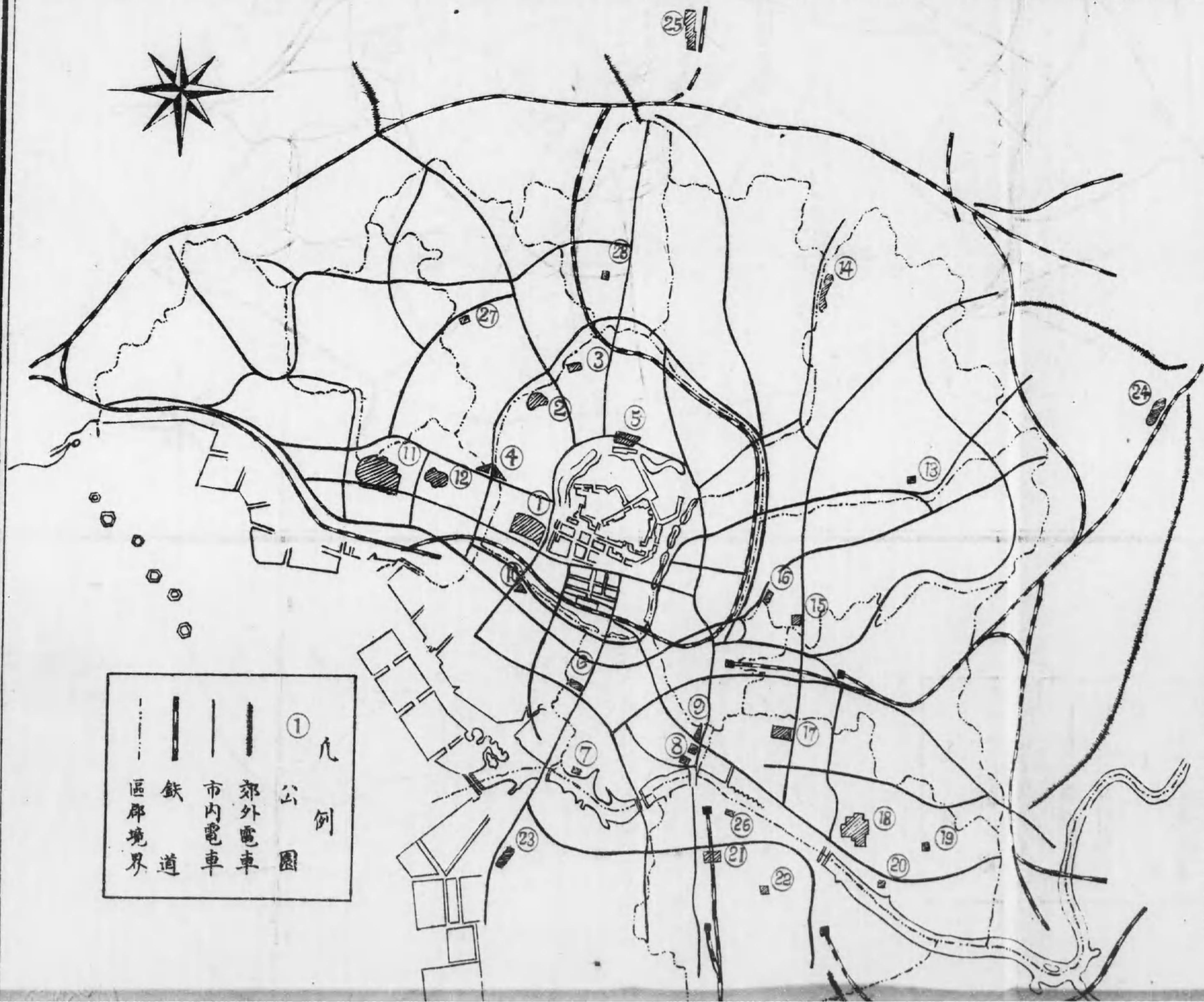
東京市公園體育施設一覽表……………七五

東京市公園植物一覽表……………七七

各公園遊覽曆……………八一

道路並木と路傍小庭……………八六

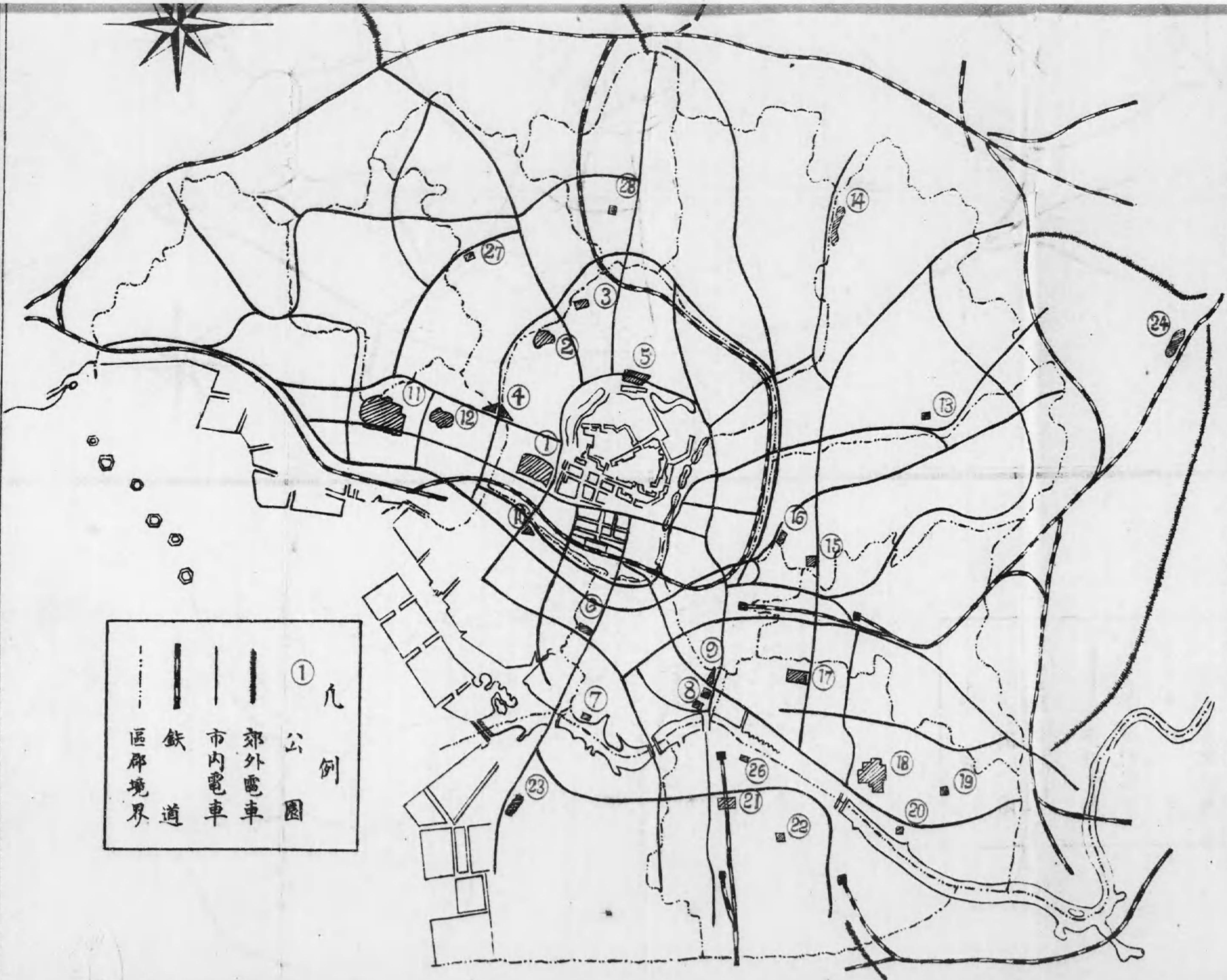




① 凡例

公園
 郊外電車
 市内電車
 鐵道
 區界

4	3	2	1	
虎	清	鞠	日	公
門	水	比	比	園
谷	谷	町	谷	名
台	台	台	台	5
淺	兩	坂	坂	十
草	草	草	草	鳥
橋	橋	橋	橋	淵
14	13	12	11	10
江	白	愛	芝	敷
戶	山	宕	寄	寄
川	川	川	屋	屋
19	18	17	16	15
今	淺	下	御	湯
戶	草	谷	茶	島
24	23	22	21	20
飛	深	若	綠	待
鳥	川	宮	町	乳
山	山	山	山	山
28	27	26	25	
四	乃	安	井	
谷	木	田	ノ	
			頭	



①	九
⋯	公
⋯	園
⋯	道
⋯	鐵
⋯	路
⋯	境
⋯	界
⋯	區
⋯	界
⋯	市
⋯	內
⋯	電
⋯	車
⋯	郊
⋯	外
⋯	電
⋯	車

4	3	2	1	
虎	清	翔	日	公
門	水	谷	比	園
台	谷	町	谷	名
台	台	台	台	5
淺	兩	坊	坂	十
草	國	穀	本	鳥
橋	橋	町	本	淵
14	13	12	11	10
江	白	愛	芝	敷
戶	山	宕	寄	寄
川	川	宕	屋	橋
19	18	17	16	15
今	淺	下	御	湯
戶	草	谷	茶	島
24	23	22	21	20
飛	深	若	綠	待
鳥	川	宮	町	乳
山	山	宮	町	山
28	27	26	25	
	四	乃	安	井
	谷	木	田	頭

東京市の公園

沿革 明治六年初めて太政官の布告で定められたものである。然し古い所では、先づ浅草観音、夫れから向島の梅若塚邊を中心に隅田川の都島に舟遊などをしたものだが徳川時代になつてから、段々江戸の開け行くに随つて遊び場所も殖る民衆の遊覧、娯樂の場所も自から出来た、著名な神社佛閣を始め兩國廣小路とか後には浅草の奥山、上野山下、芝赤羽根橋内等諸方に見世物小屋や種々な商ひ店が出来て賑つたものである。其他には四季折々の年中行事やら、臨時に催す何々の開帳といつた様に、民衆の歡樂と慰安とに資したものである。

維新前段々外國と往復が繁くなり、文明の施設を見たり聞いたりする様になつて、先づ第一には東京の往來が狭いので、火事の爲に被る慘害の忍び難い所から、道路を廣くしなければならぬと云ふので、祝田町から出た大火を機會に、銀座通りの道路を取擴げ、煉瓦の家を建てたが、遂には東京市中全市に互つて、根本的に市區改正をしなければならぬやうになつて、眞先きに公園設計が定められた。

明治六年一月十五日太政官布告第十六號

府 縣

三府ヲ始人民輻湊ノ地ニシテ古來ノ勝區、名人ノ舊跡等是迄群集遊覽ノ場所(東京ニ於テハ金龍山淺草寺東叡山寛永寺境内ノ類、京都ニ於テハ八坂社清水の境内嵐山ノ類總テ社寺境内除地或ハ公有地ノ類)從前高外除地ニ屬セル分ハ永ク萬人僭樂ノ地トシ公園ト可被相定ニ付府縣ニ於テ大地所ヲ擇ビ其ノ景況巨細取調圖面相添(大藏省)ヘ可伺出奉

此の布告に基いて東京府では同年六月左の五公園を定むるに至つた。

今般各地ニ於テ名境勝區ヲ撰ビ人民遊覽ノ地ト爲シ永ク公園ト可被定旨被仰出候ニ付於當府下ハ左ノ記載スル五ヶ所ノ地ヲ公園ト相定候事

- 金龍山淺草寺
- 三緣山増上寺
- 東叡山寛永寺
- 富岡八幡社地

飛鳥山
右

是が東京で公園を置かれた初である。其後段々に殖えたが、其の沿革を略叙する爲め便宜上三期に分けて見たい。第一期は最初東京府知事が總て取扱つて居つた時代を指し、第二期は夫から市區改正の設計で、公園が指定になり、市制に依つて市會が費用を議決する様になつてからの時代を指し、第三期は其後特別市制が廢されて、市役所が獨立してからを指さすのである。

第一期

明治六年には前述の通り淺草、芝、上野、深川、飛鳥山の五公園を置かれた。當時は今のやうに歐米諸國の體裁に倣ふとは出来ない、元々有名な勝地を故なく取壊さない様にするのが未しもあると云ふ按配で、公園内の通路とか、垣根の破損は、其附近の居住人に相當出金の上修繕をさせて居つたのであるが、明治九年に上野公園は博物館の附屬公園となつて、東京府の手を離れてしまひ、十三年になつて、初めて公園の改良と云ふ事に手を染めた。其の第一は、淺草觀音堂の周圍に、見世物小屋だの種々な店が出て居たのを取拂ふ爲めに、六區の全く田甫であつた所に池を造り、其の土で附近を埋立て其所へ移した。又雷門内の仲店が、差し掛の穢ない床店であ

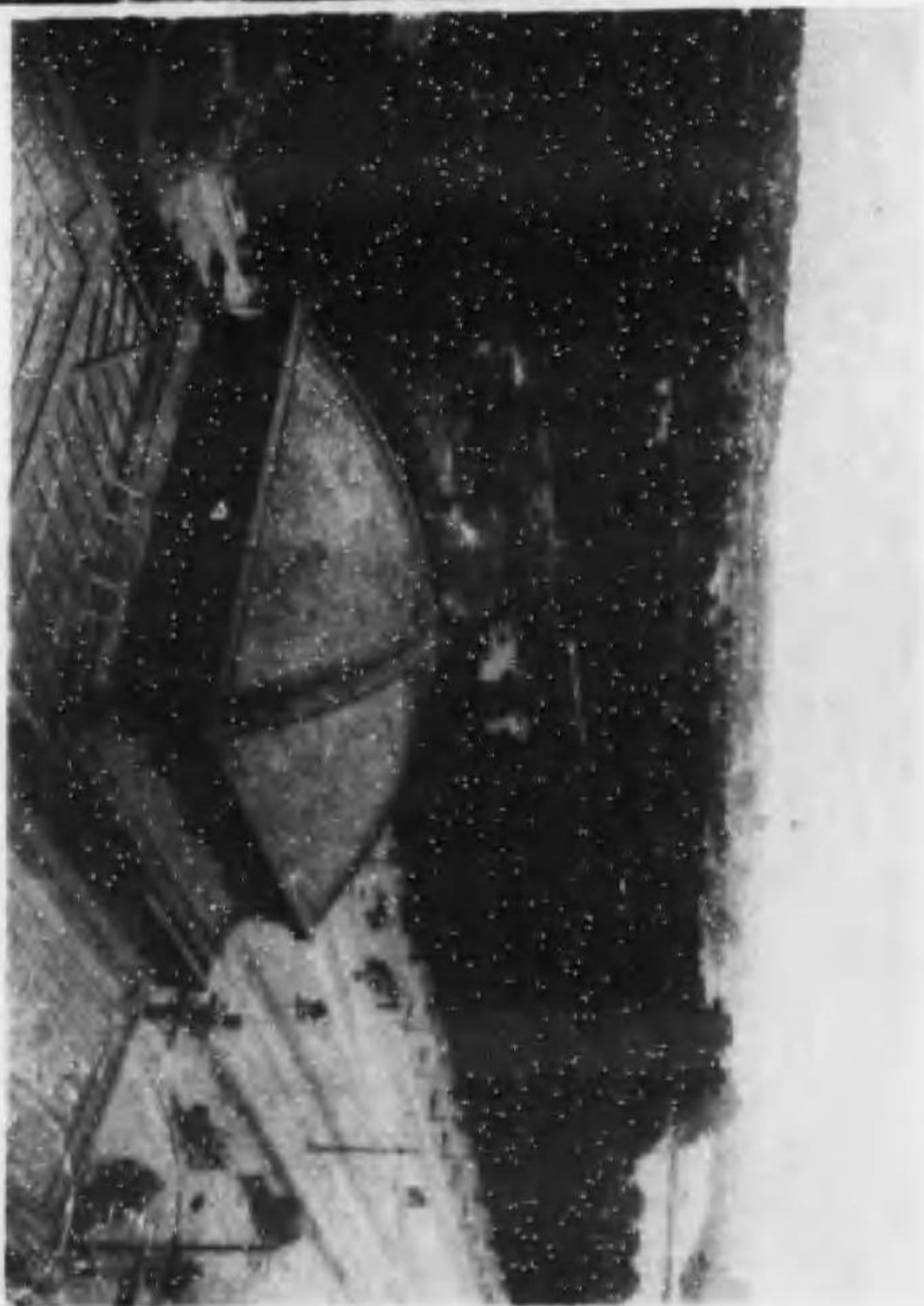
つて、道幅も三間の狭いものであつたのを五間に擴げ、煉瓦店を造つて貸す様にした。第二に芝公園は、淺草に眞似て、種々の見世があつたのを取拂ひ、大門の兩側に茶見世を拵らへ、丸山の上を平らにしたり、丸山稻荷の前の中段を均らして、紅葉館と金地院との間が谷であつたのを埋め、赤羽根橋内にあつた柵門の近所に、種々の見世があつたのを取拂つて地均をした。其他麴町日枝神社の境内が荒れてゐたので、有志が保存を計畫したが、費用が要るので、芝、上野等の名勝が公園になつたと同じ様に、公園に編入を願出する事になり、十四年六月公園に編入された。それから御成御殿の跡に、富士を摸した山のあつたのが危険なので、山を壊はして池を拵らへ、日吉橋の方からも崖に道を付けて、登れる様にし、楓を植込んだりした。愛宕神社も其後出願して、十九年三月に公園になつた。

其の少し前、明治十七年頃から今て云ふ都市計畫、即ち市區改正の相談がなかく盛んになつて來て、市區改正審査會で、十八年二月から十月迄、遊園市場其他に付いて調査した。其の結果が新舊を合し、大遊園十ヶ所、小遊園四十二ヶ所を設置する事に定めた。

第二期 市區改正委員會が組織されてから、既に市區改正審査會で作つた審査案を審議して



(二其) 皇全園公谷比日



(一其) 皇全園公谷比日

二十二年五月東京府知事から、東京市區改正設計を告示した。其内には曩に審査會で大小遊園とした其の區別を廢して、單に公園として、四十九ヶ所を選定した。當時市制が實施された許りて、東京市會が初めて公園杯の豫算を議するのであるから、調査委員を置く必要があると云ふので、委員を置いたものである。丁度其の當時、日本橋區坂本町に在つた警視廳の避病院が廢止になつて、取毀の最中であつたので、早速東京府知事(市長ノ職務ヲ兼テ居タ)が下渡を出願して許可を得、二十二年七月開園することとなつた。麴町區紀尾井町で、刺客の爲め斃れた故大久保利通卿の功勳や偉蹟を欽仰する爲、有志が哀悼の碑を建設した場所を、公園に編入する事を願出て、二十三年三月之を清水谷公園とした。是れと前後して、下谷公園(二十三年三月)、綠町公園(二十三年三月)、白山公園(二十四年五月)等が決定せられた。次で明治二十五年日比谷練兵場を、公園とすることに定めた。是迄公園に指定された場所は、大概名勝の地を選んだものだが、日比谷公園は、全部新らしき施設により、位置が東京の中央に當るので、此所に近代式な大公園を造りたいと云ふ機運に至つた。

第三期

東京市が眞に公園改良の時代に入つたのは第三期に入つてからであると言つてよ



壇花園 公谷北日



池守心園 公谷北日

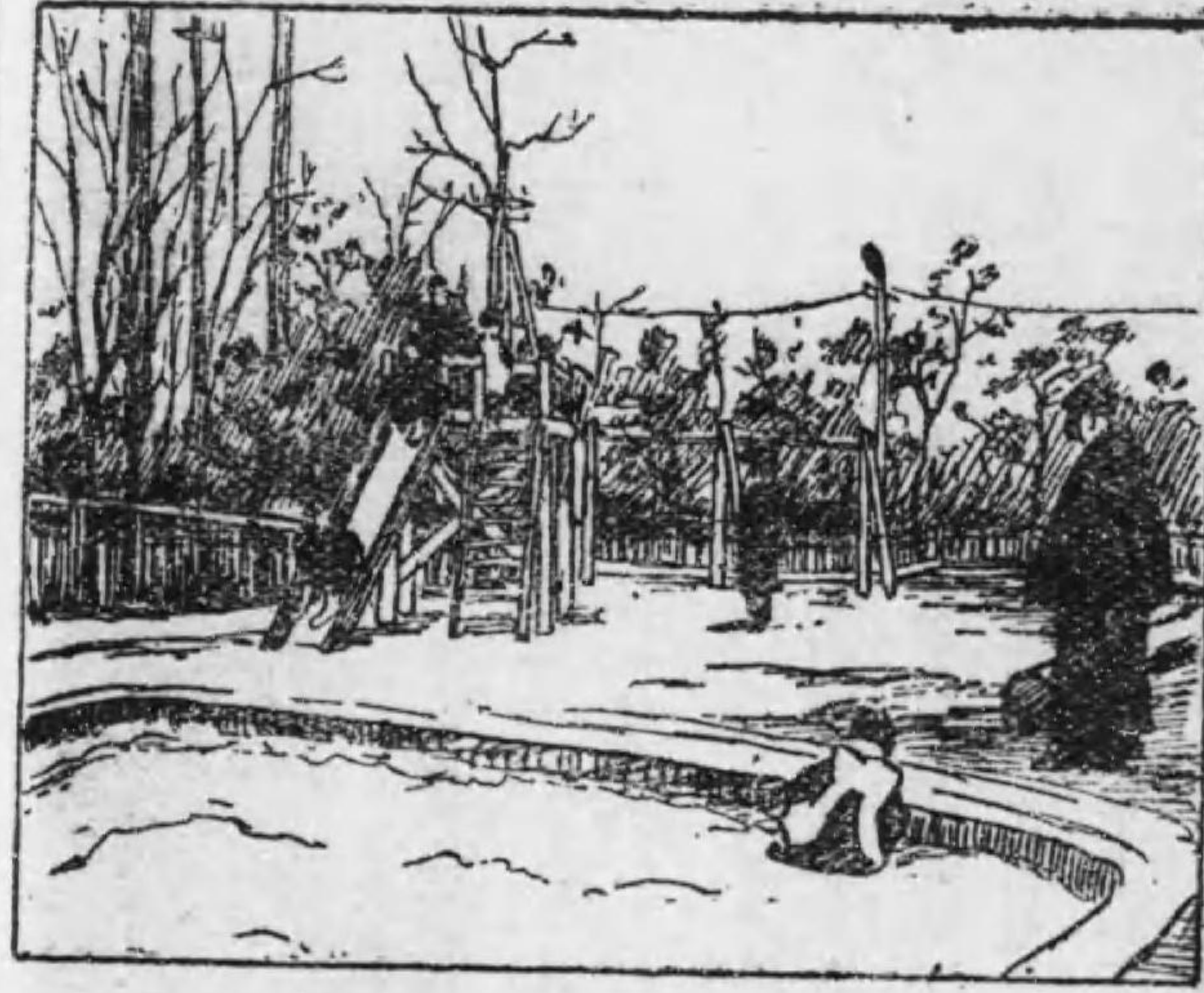
い。其の頃は特別市制を撤廃し、市會自ら市長を選舉しやうと云ふ銳氣激濁たるものであつたから、市區改正設計に大小四十九の公園が定められてあるけれど、眞に公園の體裁を備へ、民衆僣樂の地に適したものは、寧ろ絶無であると云ふが事實に近い有様だといふので、公園改良に關する調査を、専門の人達に附託することになつて、五名の公園改良委員が出来た。

其中でも日比谷公園は、新らしく造營するのであるから、辰野工學博士に設計を依頼し、市吏員中にも委員を置いたりした。其後本多林學博士などに囑託して、愈々三十四年に市會の議決を経て、工事に着手する事になり、三十六年六月一日を以て開園したのである。

其の前年、明治三十五年、市區改正速成の建議が出て、それが動機となつて、三十六年三月に、市區改正縮小設計を發布した。即ち公園は、將來益其必要を認めるけれど、經費が昂まるから、止むを得ないもの、外は、成るべく官有地に止めて置いて、民有地は減縮して、其數を三十二公園とした。其後矢の倉公園の設計を變更して、舊兩國橋の跡に定め、兩國公園と稱し、神田明神坂の市區改正道路で、御茶の水公園を造る事にした。其後段々と人口は殖えるし、市街の發展に伴つて、公園を増設する必要から、市内の空地を利用して、公園を造つたが良といふことになつ

て、市區改正委員會で、委員を設け、一年近く調査した結果が、數寄屋橋、虎ノ門、土手、龜殼町、若宮、鳥越、淺草橋、今戸の公園を設置することになつたが。後に亦千鳥ヶ淵、並江戸川兩公園を追加するに至つた。

然れども從來の公園は、多くの名勝舊蹟を利用して改良を加へたもので、觀賞散策を本位とし、日比谷公園の如き新規に造るものは、和洋兼備したものにする積りであつたが、扨て造つて見ると、和風の方は築山と、廣場を芝生にした丈のものであるからして、更に時代に適應した施設を加へるために、四十一年に公園改良設計調査を、理學博士松村任三、林學博士本多靜六、林學博士白澤保美、中鉢美明、廣瀬寅次郎の五氏に囑託し、調査の結果は、四十三年に報告になつた。之が今の東京市の公園の基本になつてゐるものだ。然し以前の公園は、老幼男女を問はず只一般的の設備をしたものであつたが、明治三十五年、日本體育會が、市民體育の普及を圖る爲めに上野、芝、淺草、深川、日本橋(坂本)の五公園に、又三十六年には、日比谷公園に、運動器械の寄附をしたのが、公園に運動設備をした初めてである。小公園が設置されるやうになつてからは、



浅草橋公園の砂場

當然東京市が設備をした。其の後には、更に子供の遊戯場所として、徒渉池を拵へたり、砂遊をする場所を設けたりした。井ノ頭公園には、水泳場をも設備した。公園は其目的の上から云つても、利用の點から云つても、萬人向きに、種々な施設をして、市民の享樂を満足させる大娯樂場となり、延いては社會教育の大訓練場ともなり、市民教育の野外講堂となつて、市民の教化に貢献する様にしたから、今後の公園は、茲に一新紀元を劃す覺悟で、大に改良する必要がある。

公園名と其の所在

日比谷公園

麴町區西日比谷町及内山下町

- 麴町公園 同區永田町
- 清水谷公園 同區紀尾井町
- 虎ノ門公園 同區三年町
- 千鳥ヶ淵公園 同區一番町
- 坂本公園 日本橋區坂本町
- 兩國公園 同區吉川町
- 蠣殻町公園 同區蠣殻町
- 浅草橋公園 同區馬喰町
- 數寄屋橋公園 京橋區元數寄屋町
西紺屋町
- 芝公園 芝區芝公園
- 愛宕公園 同區愛宕町
- 乃木公園 赤坂區新坂町
- 白山公園 小石川區白山前町
- 江戸川公園 同區關口町

湯島公園	本郷區湯島梅園町
御茶ノ水公園	同區湯島三丁目
下谷公園	下谷區竹町
淺草公園	淺草區淺草公園
今戸公園	同區地方今戸町
待乳山公園	同區聖天町
綠町公園	本所區綠町
若宮公園	同區若宮町
深川公園	深川區深川公園
飛鳥山公園	府下北豐島郡王子四町
井ノ頭恩賜公園	府下多摩郡武藏野村及三鷹村
四谷公園	四谷區須賀町
舊安田邸公園	本所區橫網町二丁目

公園の種別 現在の公園は、前述の様な長い沿革を以て出来たものであるから、之を今日の發達した専門的の見地から分類することは、聊か困難であるが、大體に於て次の様になる。

即ち、市の中央に中央公園を設け、都市公園系統の核心となし、其の次に全市を數區に分ち、其の區域に對し公園として要求されたる、各種の施設を完備せる大市街公園を設け、其れ等大公園を配置せる間に、地方的の小公園を或る割合を以て無數に配布し、それ等市街地の公園の外に、自然味の豊富なる郊外公園、自然公園等に分類されるのである。

(一)市の中央公園とも云ふべきものは、位置の上から見れば、當然日比谷公園を指さねばなるまい。而して之は二百萬市民が四季を通じ、何等かの催ある毎に、必ず足を運ぶ公園である。従つて單に麴町一區の公園と看做す事は出来ない。然し其の現在の施設は寧ろ市街公園に相當すべきであつて、將來に於ては、更に大規模な開闢なる中央公園が出来ねばならぬ。

(二)市の公園の中堅となるべき市街公園に相當すべき、完全な大公園としては、現在に於ては未成であるが、位置並規模から云へば、芝公園、上野公園、淺草公園、深川公園等が之れに屬するものである。然し何れも現況に於ては近代的都市の市街公園としては、妥當なものではなく、寧ろ特殊公園として考ふ可きであらう。

即ち、芝公園は、徳川靈廟並附近古社寺を中心とし、森林岡陵を利用したものであつて、其の

自然的風光、造園的景趣も優れ、公園的施設も相當に具備してゐるが、位置が幾分偏在してゐる關係上、餘り多く利用されない。

淺草公園は、觀音堂を中心とする舊淺草寺の境内地で、現在は娛樂、觀覽を主とした公園である。

深川公園も、八幡神社の境内地で、殿堂を中心として出來てゐるが、規模施設共に前者には及ばないが、最近一部の改良施設が竣工し、相當に面目を革めて來た。

上野公園は、現在では東京市の管理に屬してゐないが、之れも亦靈廟、博物館、動物園等を中心としたもので、中央公園的の利用、即ち、博覽會、展覽會の開催場に充てられたり、其他國民的大集會に漸次利用されてゐる。之れなども一つの特殊公園と見做すべきである。

以上の四大公園は、何れも市内適當な地點に配置されてゐるので、其の特殊な地位を尊重して其の一部に市街公園としての施設を完備するならば、他に比類のない特殊な大市街公園となり得るのである。

(三)市内の小公園としては、地方的に散在して居るが、未だ完成して居るのではなく、其の端緒

を開いたに過ぎない。其中、麴町、白山、湯島、若宮、愛宕等は、矢張り社寺の境内を利用したもので、徳川時代から市民遊樂の地となつて居たもの、純然たる市街地の小公園とは云ひ難い。純然たる公園として施設された小公園は、皆新しいもので、比較的大きなものは坂本公園である。此の地は、當初避病院であつた其跡を利用したものであるが、現在では、市の商業的中心區域に在つて、最も廣く、最も多く利用されて居る。其他、當初から公園として施設されたものは、兩國、御茶ノ水、數寄屋橋、虎ノ門、今戸、麴町等の諸公園である。社寺に關係はないが、小公園として特別なものは、清水谷公園で、之れは前述の様に一つの史蹟的小公園と見る可きである。又英國大使館前の、千鳥ヶ淵公園は、明治初年の英國大使、アーネスト・サトウ氏の盡力で、櫻の勝地として残された區域を利用したものである。

(四)以上の公園は、凡て市内に位し、朝夕市民の利用に供されてはゐるが、此等だけでは充分に自然の風致と教化を受け入れることが出來ぬ。それ故更に、郊外公園を設ける必要が生じて來た。現在の郊外公園としては、飛鳥山公園、井ノ頭恩賜公園の二つである。前者は、廣潤な櫻林として其の特色を有し、後者は清冽な池水と、鬱蒼たる杉林とで、幽邃閑雅な地として秀てゐる。

る。此の種の郊外公園は、將來に於ては、市内の小公園と共に更に増設せらる可きもので、可成早く適當の地を下して公園地とする必要がある。

公園の様式

既設の公園に就て、其の様式を適確に述べらる事は困難であるが、大體に於て、日比谷公園以前の公園は、凡て日本庭園風の手法に依つて設備されて居り、それ以後の公園は、凡て歐洲風の手法が加味されてゐる。殊に日比谷公園は、近世的公園の様式を備へ、園内各部に種々の様式を、綜合折衷して設備して居る。然し日本風と云ひ、洋風と稱へても、何れも自然に重きを置いたもので、方式的の部分は極めて少い。最近に設置された小公園の類は、種々研究された結果、地割並建築的施設に於ては、多く近代洋風を採用し、造園的手法にあつては、努めて日本風の材料並手法を取つて居る點に於て特徴を示してゐる。

又現在の東京市の財政では、都市修飾的の公園と、利用本位の公園とを區別して設置することが出来ないから、何れの小公園も、凡て兩者を兼ね備へしめる様にして居る。即ち、園の周辺には風致ある植込を圍らし、中央の大部分は、運動遊戯場に充て、居る。之れは小公園が増設されるに従つて自ら分類されて、歐米都市に於て見る如く都市美の骨子となる可き程度のもものと、完

全な利用本位の小公園とが完成されることであらう。

公園の施設

公園の施設は、其の公園地の種類、環境并に其の目的に依つて、非常な差異があるが、大體に於て休養、散策並觀賞の爲めに、自然の風景植物を利用した風趣ある庭園に外ならぬ、隨て幽雅な植込地を必要とすること勿論であるが、日比谷公園の如きは廣濶なる緑の芝生、四季百花の咲き亂る、花壇等をも備へて居る。

運動遊戯の施設は、公園の實用的主體で、之れには最も多くの面積と經費を要して居る。即ち運動用廣場、運動機械設備地、兒童専用遊戯場等を設けて居る。

休養施設としては、雅致ある四阿、藤棚、露床等が配置されてある。夜間の利用には、相當な照明施設があり、通路、廣場の保全に就いては、排水施設、路面整美等の施設があり、園の外周並植込地等には、夫々風致ある人止柵を設けて居る。而して之れ等の人止柵は社會の進歩に伴ふ公徳の向上に従ひ、嚴重な構造や様式は追々跡を絶ち、輕快で清洒な、單に表示するに止る様なものに變つてゆくことであらう。

其の他必要な便所、飲用水栓、手洗等も充分に設備されてある。特別施設としては、日比谷公

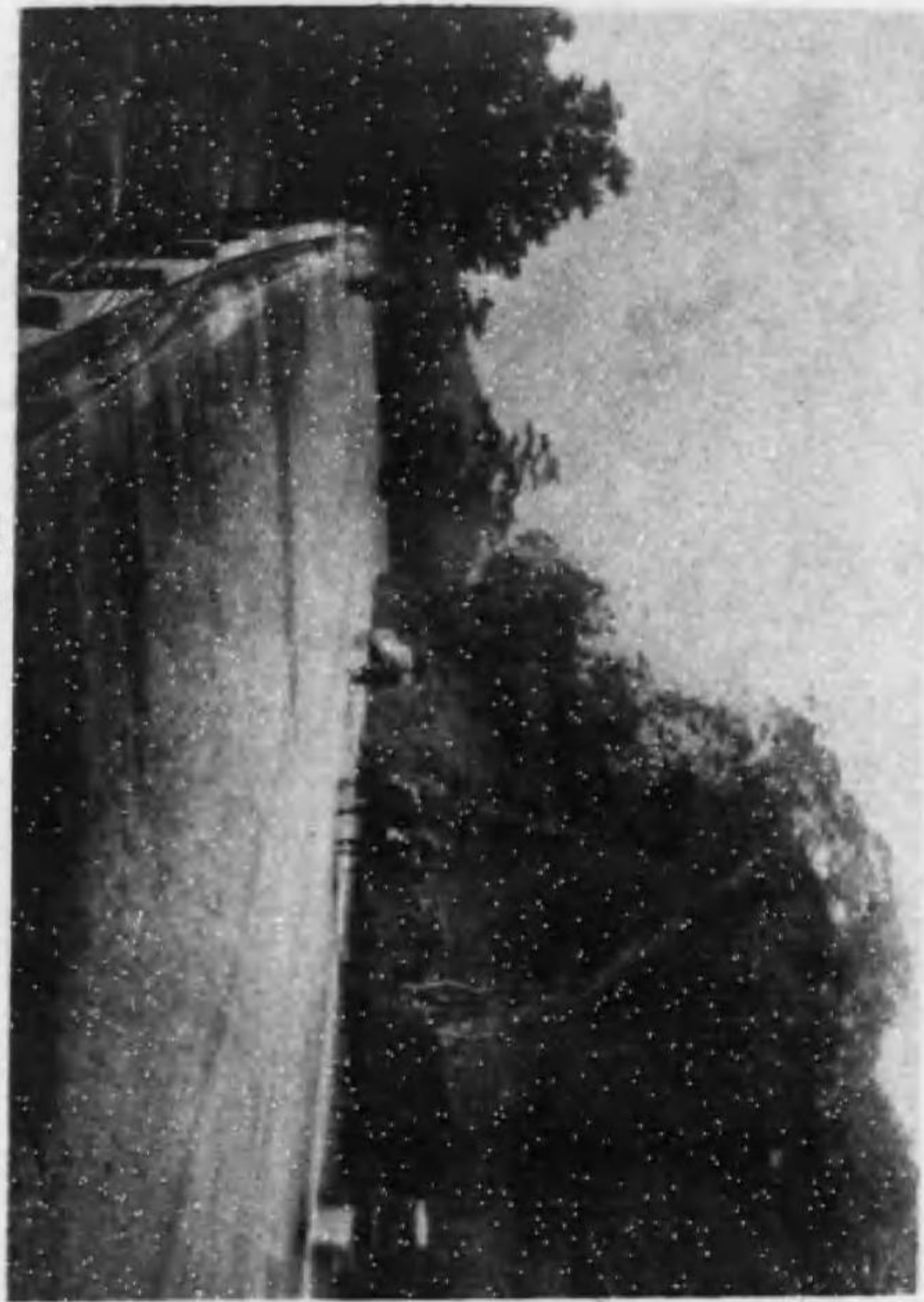
園の音楽堂、飼禽場、井ノ頭恩賜公園の水泳場等を擧げることが出来る。

公園の植物 東京の公園は地勢其の他の關係で非常に植物の變化に富み、公園施設として植込まれたる植物は格別として、古來繁茂してゐる樹木も比較的多い。

これは東京の地勢が、一方は臺地で、一方は臨海の低地である關係の外に、公園地の多くが社寺境内であつた關係上、種々の樹木が植付けられたる上に、これらの古い樹木が、其の儘保存されてゐることが大に與つて力あるのである。されどこれらの老樹大木は、都市の發展と共に、年々枯損し、追々貴重な其特徴を失ひつゝある。例へば芝、上野、麴町、白山等の杉、樅の密林は、殆んど枯れ果て、現在ではシヒ、カシ類と落葉樹がこれに代つてゐる。芝公園の南半部、深川公園、淺草公園等は、黒松の立派なものが多かつたが、これも漸く樹勢が衰へて來た。

現在に於て割合に多いものは、常緑樹としては、シヒ、カシの類で、二三百年を経過したものが尙存在してゐる。

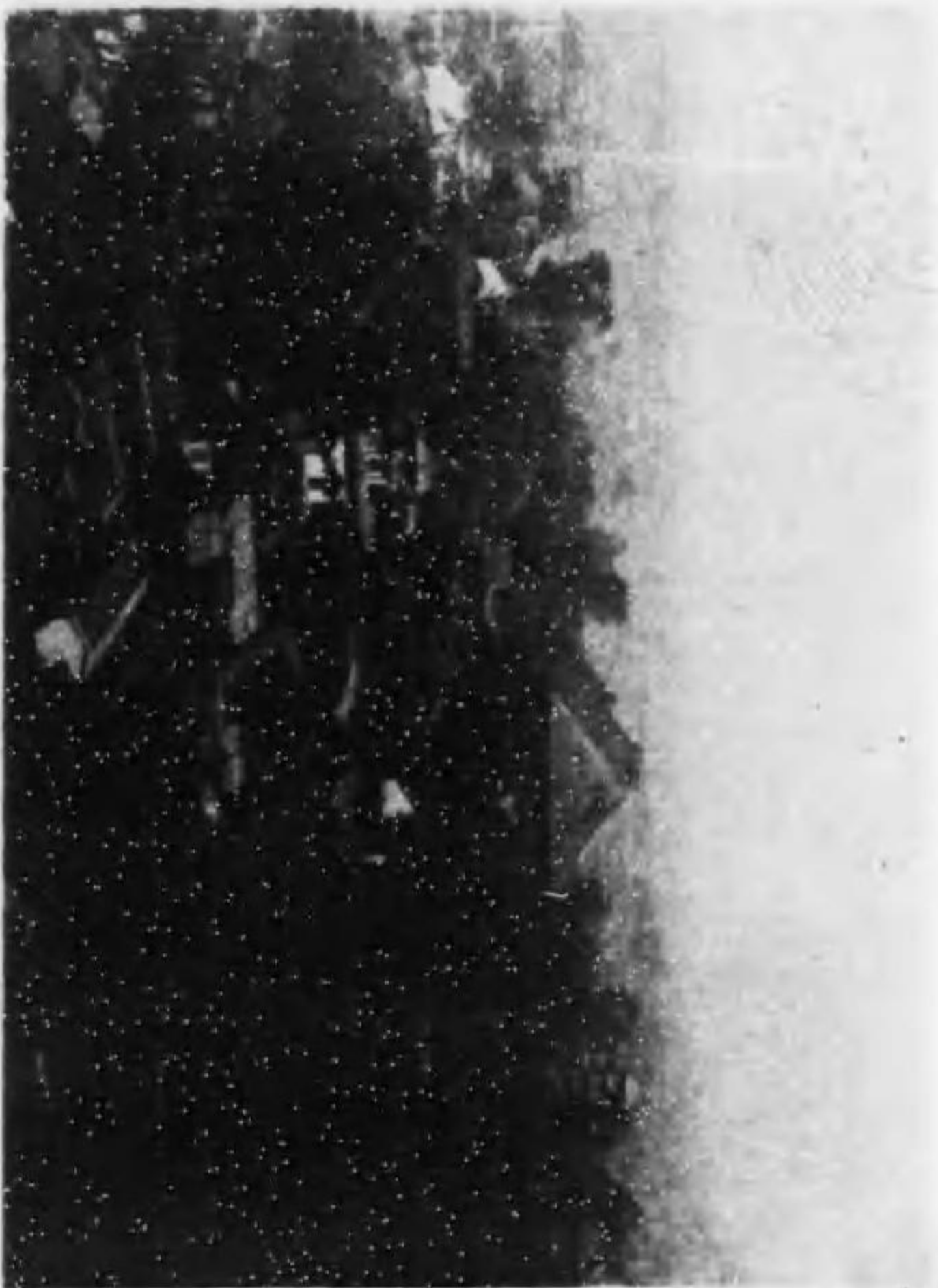
落葉樹として、公園の景姿を作る老木なものは、ムクエノキ、ケヤキ、イテフ等である、殊に淺草公園の公孫樹は、觀音堂の周圍に配植されてあつて、殆ど他に見る事が出来ない程、立派なも



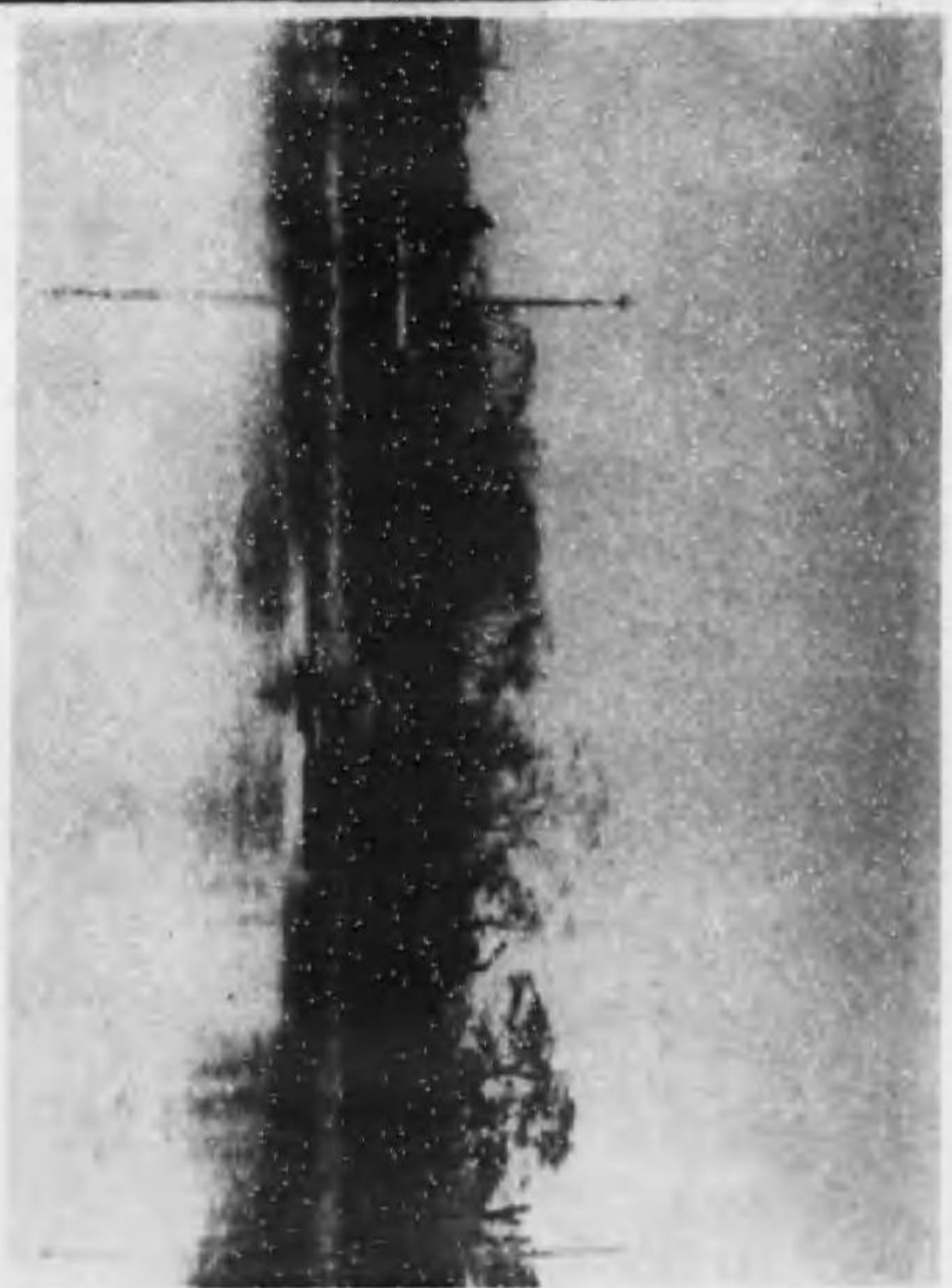
道車下山丸園公芝



流溪下山丸園公芝



泉公園の草花



池公園の草花

のが多い。

麴町公園に在りては、スギ、モミ等は枯損したがシヒ、ヤマクス等の老樹は、今尙鬱蒼としてある。此の公園には、數抱もある老大なカツラ、トチ、キハダ等が残つてゐるが、かゝる老樹が市内に今尙あるは、大に誇るに足るものである。

その他公園地に植ゑられたる植物にて、最も多いのは、針葉樹ではアカマツ、クロマツである。ヒノキ類、カヤ、タウヒ、等は之に次ぐものである。外國より輸入されたヒマラヤスギは、東京などの地に適し、不健康な状態、汚濁した悪空氣に堪へ得る素質を有つて居て、追々ヒノキ、サハラの代用として植ゑられつゝある。

常緑闊葉樹としては、シヒを主とし、シラガシ、アカバシ、ウバメガシ、ツバキ、サバンクワモチ、サンゴジュ、モツコク、ネズミモチ等が最も多く利用されてゐる。

落葉花木としては、各種のサクラ、ウメ、ヒヤクジツコウ、モクレン、ハクレン、コブシ、フジ等である。

落葉闊葉樹は、ス、カケノキ、ユリノキ、アラギリ、エンジュ、ホ、ノキ、トチ、ケヤキ、ボ

東京市の公園

ブラ、ニセアカシヤ、エノキ、ムクエノキ、ハクウンボク、エゴノキ、カツラ、ミヅキ、イテフ等、數へ擧ぐるまでもない。其内て紅葉類は、殊に多くヤマモミヂを第一とし、タウカヘデ、イタヤカヘデ、ミツデカヘデ、オホサカヅキカヘデ、ノムラカヘデ、トネリコバカヘデ等である。

灌木、又は其れに準じて取扱はれて居る植物では、針葉樹類としては、アスナロ、ソナレ、カムロマツ、キヤラ等で、闊葉樹としては、アヲキ、ヤツデ、マサキ、ヒ、ラギ、ヒ、ラギナンテン、イヌツゲ、ツゲ、ヒサカキ、アセボ、チンテウゲ、クチナシ等の常緑のものが最も多く植ゑられて居るが、其間にガク、アヂサキ類、ドウダン、ユキヤナキ、シモツケ類、キンシバイ、ビジャウヤナギ等がある。

花木としては、主として躑躅類であつてリウキウツ、ジ、キリシマ、サツキ、レンゲツ、ジ等で其他は花のみを目的とするのではないが、キョウチククタク、ボケ、レンギヤウ、ヤマブキ、ハナスハウ、ハギ、フヤウなどがある。又近頃生垣的に植ゑられるものとしては、ピラカンサス、マサキ等がある。草本類としては、シヤガ、ツワブキ、リウノヒゲ、スゲ、イトラン、ギバウシ、ビナンカヅラ、ツタ類がある。花壇用草花は茲には省略する。

而して之れ等公園植栽用の植物の過半数は一般市場で購入してゐるが、尙一部市場にないものは、市苗圃に於て栽培して居る。苗圃は、羽根澤、大久保、野方等孰れも墓地或は病院等の市所有地をこれに充て、居る。

公園の動物

公園には自然的の風光を寫出して觀賞娛樂の對象として居るが、従來は主に植物又は造園的方面にのみ偏した厭ひがあつたが、最近には本市公園にも、動物的施設をも加へられて來て居る。之れは所謂動物園としての學術的研究の立場から飼育するものではなく、一つは自然的の氣分を作る爲め、一つは夫れ等動物の形容又は自然の動作を、觀賞娛樂の對象とし、又兒童の自然教育の一助と爲すものである。故に公園の動物は興味本位に飼養すべきもので現在本市公園で動物を飼育して居るのは、日比谷公園と井ノ頭恩賜公園の二つである。

日比谷公園では、心字池に鶴、鴨、鵝を放養し、其の他兒童遊園地の一部に飼禽場を置き、夫れに孔雀、鸚鵡、鳩類、鷓鴣等を飼養し、又別に熊、綿羊、山羊、傳書鳩等を飼育する一畫がある。鹿は金華山より特に取り寄せたものと、宮内省より下賜されたものを兒童遊園地の一隅に飼ひ、其他猿は花壇附近に檻に入る、事なく、長竿に縛がれ常に愛嬌を振りまいて居る。九官鳥、鸚鵡

又は雲雀、カナリヤ、^{ホネ}鷹白等の鳴禽類は、小さな籠に入れて木の間に懸け自由に囀らしめる様な設備を試みて居る。

井ノ頭公園に於ては、檻に飼育されて居るものとしては鹿、山羊である、池には自然生のヨシキリ、オヒヨウ、クイナ、鶇等があるが、これ等も出来るだけ保護して安全な生育を保たしめて居る。

魚類は、各公園の池には大抵觀賞鯉を飼育され、芝、淺草等には龜類も放飼されて居る、又井ノ頭の池には動物學上珍とされて居るトゲ魚が棲息して居る事は注意すべきであらう。

運動施設 公園の運動施設は、一面體育上から、他面娛樂的に考へられて居る。大公園に於ては、ランニングトラックを設備し、或は設備し得る廣場を有して居る。然し小公園にては、兒童の陣的遊戯に供する位の小廣場を有するに過ぎぬ。此等の廣場は、日常自由に公衆の運動に供して居る。臨時的の使用としては、學校其他の團體、運動會等にも用ひられて居る。此の場合に於ては、豫め許可を得べき事になつて居る。運動器械は或る公園に於ては兒童用と青年用とに分たれて備付けてあるが、小公園の多くは、兒童用のみに止められてゐる。其の主なるものは、

ブランコ、水平階梯、シーソー、双環、滑臺等であつて、青年用としては、金棒、梁木がある。數年前まで回轉塔、腰掛ブランコ、遊動圓木等を備へてあつたが、危険が多いのと、管理が困難な所から當分の内撤回してある。

此等の器具は、公園に適當な指導員が夫れ／＼置かれ、且つ公衆が一層訓練されたなら、尙多くの興味ある種類の施設を増すことが出来るであらう。嘗て日比谷公園に、ローリースケート場も設けてあつたが、スケートローラー貸付の関係から、廢止されて居る。水泳場は井ノ頭恩賜公園に池水を利用し、男子用として、長さ六十ヤード、幅約二十五ヤード、深さ四尺乃至六尺の水泳場が設けられ外に兒童用として、約百五十坪程の庭園風徒涉池が設備されてある。砂場は兒童用として、主なる公園に設けられてある。徒涉池は、日比谷、深川等にあるが、此等に就いては、管理上研究を要するものが多いので、一般に設備する事は充分考慮を要する。

此等公園の運動場は、球遊び場にも用ひられて居るが、野球は屢々危害が伴ふ爲め禁止されて居り、軟球のキャッチボール位は許されて居る。庭球は日比谷、芝、深川公園等で行はれ、特にコートを施設されて居るは、日比谷公園に三ヶを有するに過ぎない。之れは切符制度に依つて、

誰でも二時間を限度として無料で貸與されて居る。而して夏は夜間にも使用し得る様、照明施設も備へられて居る。

フットボールは、是近公園に於て盛に見られる事になつたが、クリケット、ホツキー、ゾォーレーボール等は、稀に一部の人々に依つて行はれて居るに過ぎない。

運動場に指導員を置く事は、豫てよりの計畫であるに拘らず、經費其他の關係上實施するに至らなかつたが、大正十一年度から、日曜、土曜の兩日に限り、日比谷公園兒童運動場に囑託を置くことになつて、兒童遊戯の指導並に場内の監理に當らしめて居る。

庭園的施設 公園の庭園的施設としては、大體に於ては所謂公園式の植込地であつて、地割の上では洋風を加味したものであるが、植込其他の手法は日本庭園風の部分が多い。其れ等の多くは、池、瀧、溪流等に附隨した山水庭風のものであつて、天然石を配置し、風致に富んだ庭樹を植込み、文人的の趣味を現はして居る。殊に此れ等の水景の中には、風趣ある島、或は種々の意匠を凝らした橋を架し、交通に便する外、園景に一層の趣を添へ、池の中には、鯉を養ひ、水草を植ゑ、其他丘陵の區域には山岳の懸崖絶壁、羊腸たる山路、或は眺望に便する爲め、山嶽等を模造し、自然的な造園技巧を凝らしてある。

花園としては、日比谷、芝、淺草、深川等の躑躅園、芝、湯嶋等の秋草園の外、洋風花壇としては、日比谷公園に大花壇が設けられてある。西洋花壇は管理の點に於て、一般の公園には設けられて居ないが、將來に於ては、各公園共、美しい咲き亂れた花を見ることを得るであらう。

休養施設 公園の休養施設としては、各所に四阿、露床、腰掛が備へてある。四阿は、従前は多く數寄屋風に建てられて居つたが、現在では洋風の四阿をも造られる様になつた。然し四阿は、休息所と見るよりも、一つの庭園の風



橋石の園公草淺

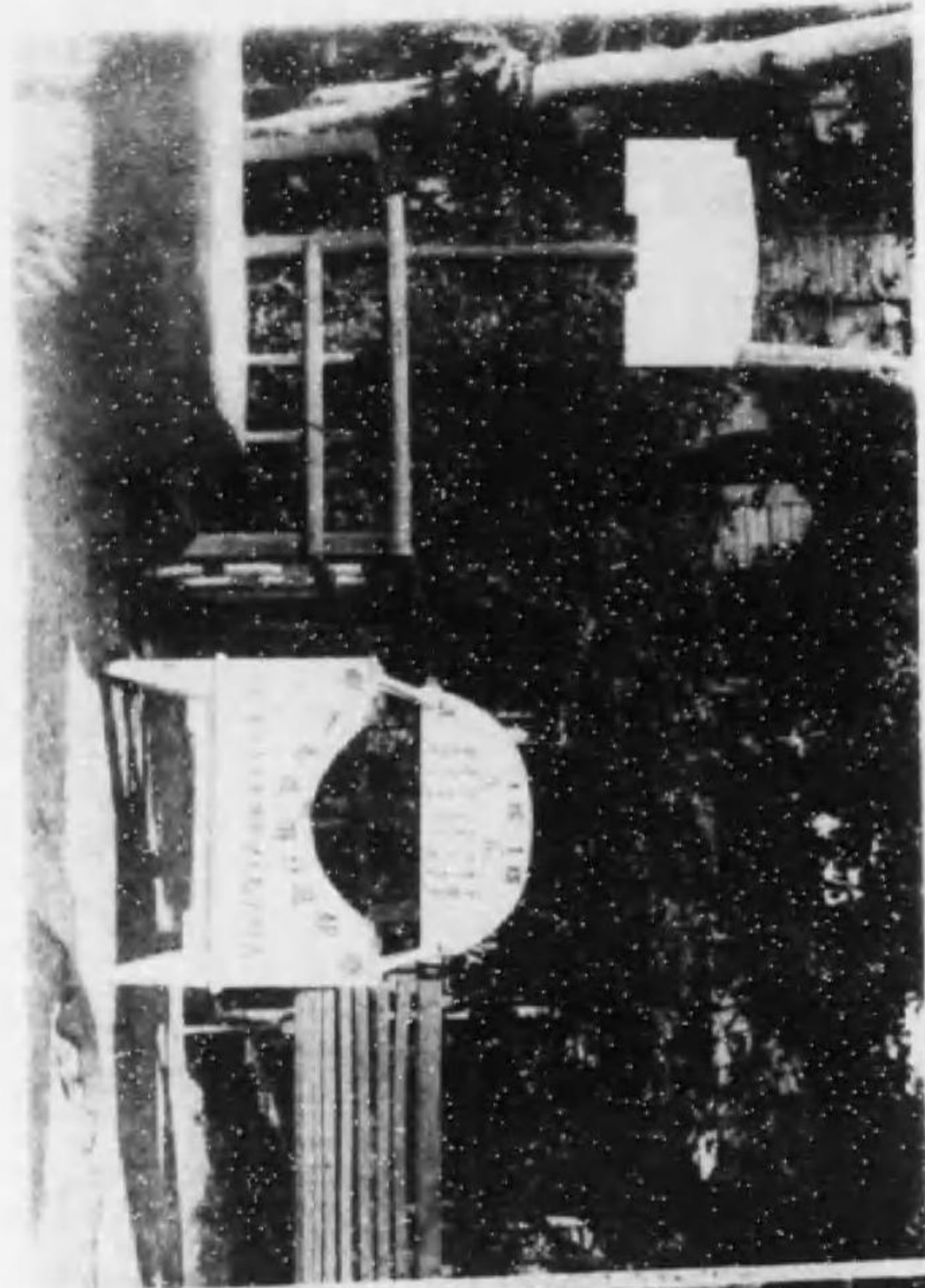
東京市の公園

趣として設備されて居るのであつて、實際上の利用は、餘り大なるものでなく、又種々の弊害が之れに伴つて居るので近來は餘り増設せぬ様になつて居る。然し其の様式大さ等には改善される所があるであらう。四阿に準ずるものとしては、藤棚を各公園に設けてある。此は雨天の時には利用され難いが、然らざる場合は、四阿よりも休息所として心地よきものである。最近改造された藤棚は、休息所的に設備されて、夜間の照明等も備へられてゐる。

露床は適當な綠蔭に配置されてあつて、殆んど凡てのものは、鑄鐵製の臺に板が取付けてある。然し稀には木造、或は人造石のものがある、其の外公園によつては、



比谷公園の飲用水



比谷公園の遊歩道



比谷公園の鶴



橋石の園公芝



橋の園公川月江

木の切株、或は石材の單純なものを据付けて置く所もある。

此の外大なる公園には喫茶店の營業を許してあつて、中には割烹店を兼ねて居るものもある。各公園共、水道飲用栓が設けてあつて、場所に應じ種々な意匠を凝してあるが、最近には噴泉式のものに改造しつゝある、然しこれに惡戯を加ふる結果破損するものゝ多い事は遺憾である。

公園の建築物 どの公園にも在る建築物は四阿と便所である。四阿は和洋風共に設けられてあつて、總て吹貫の構造で、殆んど木造であるが鐵筋コンクリートのものもある。其の様式は茶亭風の數寄屋式最も多く、洋風木造のもの、石造のものもある。

便所は現在では數寄屋風のものよりは、洋風のものが多く、殊に最近では衛生並に維持の關係より、鐵筋混凝土に改造される様になつて、地下便所、半地下便所等も幾分建設されて居る。此等の外、公園事務所、園丁詰所等がある。

特殊なものとしては、動物舎があるが、今日では日比谷公園と井ノ頭恩賜公園のみに在る。日比谷は飼禽場として、鐵骨鐵網張のもの二棟、鹿舎並に羊舎木造二棟を有し、井ノ頭公園は、木造鹿舎二棟を有して居るが、何れも天然木を以て組立てた野趣に富むものである。

東京市の公園

又最近公園に建設し始めた特殊の小建築物としては、揚水唧筒器械室である。或るものは天然石を以て積み上げ、上に植物を植栽し、或るものは鐵筋混凝土造のものもあり、又木造洋風のものもあるが、公園としては、自然的のものが裝飾的のものがよい。

公園の音楽

音楽堂の在るのは現在では、日比谷公園で、四月から十一月まで土曜日の夜或は日曜の午後、定期に臨時に一年を通じて約二十五回ほど西洋音楽を演奏して居る。演奏は、陸軍又は海軍軍樂隊の管絃樂、吹奏樂を合せ奏されて居る。曲目は洋曲中一般に親しみの多い曲と、新しい作者のものを適當に組み合せられて居る。稀には邦樂を加へられることもある。毎回の聴衆は、三四千人を越え時としては六七千人に達する事もある。在來の音楽堂は所謂バンドスタンドであつて、其れを環つて聴樂席を設け、前後の二區に分れ、後區は入場券を發行して整理し、他は自由に開放して居るが、新築のものは、野外劇場式の半面のものであつて、舞臺を半圓形に圍つて居る後上りの聴樂席が設けられてあつて、三千餘の座席を備へ、必要に應じ五六千人を收容し得る。此の新音樂堂は、從來の吹奏樂、管絃樂の外、邦樂、野外劇、講演等にも使用する事が出来る。此の新音樂堂は、將來公園の利便性の上に大なる貢獻を爲す事であらう。

史蹟と天然紀念物

東京は、關東平野が東京灣の入江に臨んだ端に當つて、古は武蔵野の原杯と如何にも茫漠たる所の様に歌にも詠まれてゐるけれど、決して無人の境でなく、石器や素焼の土器を使つたアイヌ派の先人や、吾々の祖先に當る人達が、森に狩し、海に漁りした武陵桃源にも等しき樂土であつた。其證據は、當時使用した遺物が、今も尙ほ市内の諸方に發見されるのでも判る。従つて公園にも遺跡がある。

芝公園の丸山下には、貝塚の跡があつて、貝殻が散布して居る。紅葉館の庭も貝塚の跡で、石器や土器の破片が出た。其他千鳥ヶ淵は麴町三丁目の貝塚に近く。湯島公園も、其北隣の岩崎邸内に大貝塚があるので矢張り遺跡の一部である事が知れよう。飛鳥山公園は、西ヶ原の大貝塚が近くにある。昔の瓦投げ遊びは、或は此土器の破片を、慰みに崖下に投げたのが濫觴ではないかと云ふ説もある。井ノ頭恩賜公園に至つては、立派な遺跡で、池の周圍に石器や、土器の破片が散在してゐる。上野公園も亦、立派な遺跡があつて、石器、土器が出て居る。

此等は、何れも二千年前後の大昔の事であるが、其後吾々日本人の祖先も、かなり古くから東京の地に居たことは、諸方に塚の残つて居るので判かる。

芝公園には、有名な丸山の瓢形古墳を初め、十ほどの陵塚があつて、直刀、蕪形の鏃、曲玉、銅環、壺、埴輪人形杯が出た。其他上野公園、麴町公園、白山公園、浅草公園、待乳山公園及井ノ頭恩賜公園にも塚がある。

公園は、多く古來の名勝地を利用した丈に、古松、老杉亭々として、晝尙暗き密林をなす所がある。上野公園、麴町公園、白山公園杯は左様である。巨樹、老木の重なるものを掲げて見れば、銀杏ぎんぎょう (一)日比谷公園(松本楼附近) 高約七間舊鍋島邸にありしを明治三十五年に移植したが

僅々四丁計りの所を運搬に二十五日も掛つた、大木移植の珍しいレコードである

(二)浅草公園(觀音堂裏) 高十間樹齡七百年源頼朝の挿した箸から發芽生長したと云ふ傳説がある

(三)芝公園(東照宮社務所前) 高十一間半徳川家光手植と稱せらる

(四)白山公園(白山神社の西南) 大なのが一本ある

(五)深川公園(八幡神社の裏) 大なのが二本ある

(一)芝公園(東照宮北方横) 高九丈六百年以上

榎

(二) 同 (後藤伯銅像左方) 高六丈餘

(三) 同 (西向觀音下石段の上) 高五丈餘

(四) 同 (西向觀音南) 高五丈餘

(五) 同 (御成門西方石垣の上) 高五丈餘

(六) 同 (正則中學運動場の後方) 高五丈半

(七)日比谷公園(土手上) 高四丈餘

(八)上野公園(摺鉢山の下) 高六丈餘

榎 (一)飛鳥山公園附屬地(一里塚) 名木の二本榎高五丈餘(内一本最近枯死)

(二)上野公園(博物館左一丁角) 高十一間半

(一)上野公園(博物館東南一丁) 高十五間

(二) 同 (摺鉢山) 高十二間半

(三) 同 (摺鉢山下) 高十數間

(四)芝公園(紀州家墓地傍) 高十三間半

樟 (一)芝公園(東照宮の南)

高五丈五尺餘

(二)上野公園(東照宮脇)

高十三間餘

其他異つた樹として古來知られて居るのは、芝公園台徳院廟に檜椿と、菩提樹、有章院廟に沙羅、雙樹、文照院廟に臭多羅等があり、麴町公園には、高野槇、桂、黄蘗、樅の古木もある。上野公園には、舊寛永寺鐘樓跡の隣りに、鐵柵で圍んだグランド將軍手植の泰山木と、洋檜とがある。四季折々の花曆に載る様なものでは、梅は、芝公園の梅林で、有名な角筈の銀世界を移したものの櫻は、飛鳥山公園と上野公園が古來の名所である。麴町一番町の濠に沿ふた千鳥ヶ淵公園は、櫻の季節には櫻花のどんねるを造り、眺望甚だ美事である。藤は、日比谷公園、芝公園、清水谷公園、浅草及深川公園等にある。躑躅は、日比谷公園、芝公園、清水谷公園、紅葉は、芝公園、麴町公園、井ノ頭恩賜公園などが、先づ見ものである。

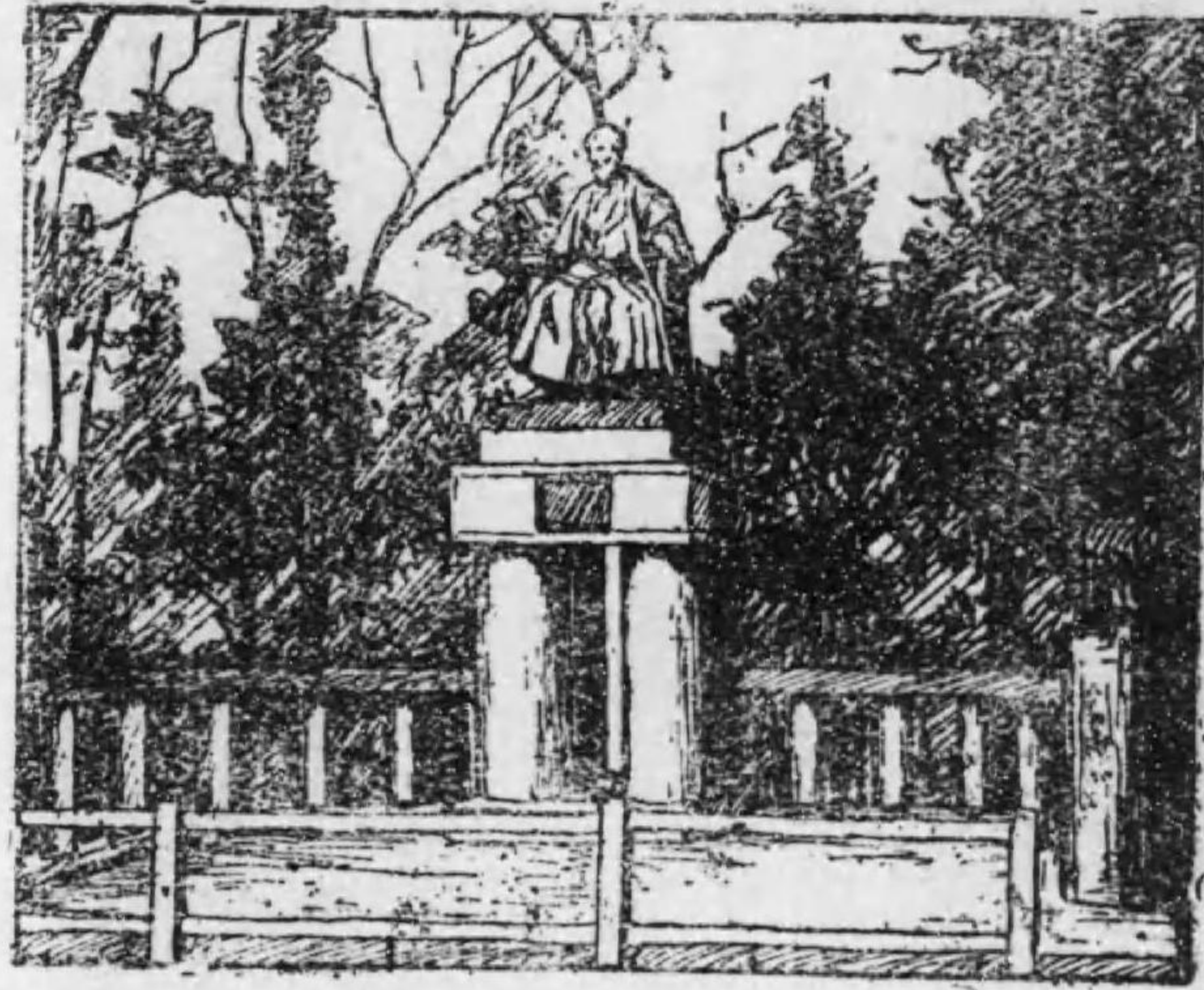
銅像と碑石

東京市の公園の多くは、名勝蹟を利用したものであるから、園内には昔ながらの碑石が存在してゐるが、公園になつてからも、建碑若しくは銅像の建設を許したものが少ない。國家に功勞あつたものとか、社會を指導裨益したものであるとか、何か山緒のあるものでなければ許可しないのが例である。

銅像は芝公園に多く、板垣退助、大隈重信等の銅像も同公園にある。

記念碑としては、清水谷公園にある故大久保利通公哀悼記念碑を首とし、麴町、數寄屋橋、浅草、深川公園等には戦死者の忠魂碑、湯島公園には菅公の記念碑、長谷川泰氏銅像、芝公園には伊能忠敬の記念銅碑、楠本正隆の碑があり、又井の頭恩賜公園には、殉職訓導松本虎雄の記念碑もある。

古碑には有名なるものが少くない。浅草公園の西佛の古板碑を初め、佛庵の普門品の碑、雲峯の一葉觀世音の碑、詩佛の觀世音碑等がある。其他歌人俳人の狂歌等を詠んだ碑も多くある。榎樹の碑は石川悟堂の書で、源義家東征の際武運を祈り、榎の枝を挿した故事を傳ふるものである。待乳山公園には、聖天の碑及待乳山の碑を初め、戸田茂睡の「あはれとは夕越て行く人も見よまつちの山に残すことの葉」の碑、和唐紙製祖の碑、歌人俳人の句碑がある、愛宕山には猿々齋の狂歌の碑。虎ノ門公園には佐竹侯邸内にあつた西行櫻の句碑と江藤新平の碑がある。深川公園には、永代島の碑を初め辨財天の碑、歌仙櫻の碑其他狂歌俳諧の碑が多數ある。白山公園には



湯島公園内長谷川氏銅像

旗櫻の碑、飛鳥山公園には佐久間象山撰文の櫻賦の碑、成島鳳卿の飛鳥山の碑があり、同公園の附屬地になつてゐる二本榎の許には一里塚の碑がある。

神社と佛閣

東京市の公園は名勝を利用したものであるから、古い建築物が幾らもある。麴町公園の日枝神社は徳川初期の代表的建築であり、浅草公園の観音堂は、之れも古い江戸時代に於ける佛堂建築の傑出したものである、芝公園の台徳院廟は建築として、工藝美術の粹を集めたものである。

日枝神社は、明暦の大火に炎上したので、萬治二年徳川家綱が今の所に再建したものだ。上

野東照宮と同じく、鈴木修理長恒と、木原内匠義久との造營になれるもので、現在残つてゐる江戸時代の古い神社建築物で、其の規模は、上野東照宮よりも壯大な権現造りである。

浅草寺 浅草寺の本堂は、慶安二年三代將軍家光の再建て、上野東照宮に同じく、鈴木修理長恒、木原義久の兩人が造營したもので、入母屋造り耳瓦で、東京にある殿堂の最も大きな規模である。仁王門内の五重塔は、本堂より一年前に建たもので、高百十尺あるが、珍しいのは塔の中心の柱が礎石に付かないで、四隅から基柱を吊つて居る事である。

芝増上寺 本堂は度々の大火に造り直したが、山門と開山堂、經藏丈は、寶永元年に再建したのが残つてゐる。山門は唐様の造りて、上層が下より大きいし、二階に上るに、普通なら裏の方から階段で上下するのを、山廓と云つて、切妻造の小屋が兩側に在つて、階段が斜に付いてゐる。

靈廟は幾つもあるが、其の中で台徳院廟は、其壯麗日光廟に劣らず、寛永九年、土井大炊頭が總奉行で、當時の名匠巨匠をして造營せしめたもので、佛殿風を帯びた権現造であることは珍しい。拜殿から本殿、殊に寶塔の立派なことと云つたら素晴らしいもので、美を盡し華を極め、

目を射り、桃山時代の精華を偲ばしむる造り方である。東京では、他に類のない珍しい歴史的価値ある建物である。又斯く多数の廟を一所に集めた點に於ても、亦東京の古美術の誇である。

深川八幡宮 権現造りの變態で、本殿と拜殿とを連結する合の間が、中央に於て左右に出て、羅馬建築の十字形（トランセプト）に似てゐる點が珍しい。

其他湯島神社、愛宕神社、白山神社は、普通の権現造りて、拜殿と本殿とを合の間で連結した造りて、皆割合に新しい建築である。尙ほ美術上から、淺草寺、深川八幡、愛宕神社等にある繪馬は、貴重なものであるが、芝公園の台徳院廟の前にある吉岡豊前介重繼と云ふ彫物師が、寛永二十一年に造つた涅槃石と、曼荼羅石とは、昔は民衆に觀覽を許されなかつた所にあつた爲め、人口に膾炙しなかつたけれど、美術工藝品として實に國寶に値すべきものである。

各公園の案内

日比谷公園（麹町區西日比谷町及山下町）

宮城二重橋前の廣場から、濠を距て、南に在る舊大名屋敷の跡で、維新後は練兵場になつて居つた。全園平坦な地に中歐近代風の公園の様式に依つて、種々設備をしたのである。開園は明治三十六年六月一日、市内唯一の大市街公園である。

園は南北に稍長い長方形を爲し、六門を備へ、東に向つた中央の正門が、日比谷門、東北に當る電車交叉點寄の角即ち舊日比谷見附跡の門が有樂門、北方濠端のが櫻門、西方霞ヶ關に向ふ門が霞門、西南日比谷圖書館脇のが西幸門、東南勸業銀行に向つた角が幸門で周圍に鐵柵が繞らしてある。園内は、幅七間の彎曲した車馬道を通じ各門を連絡させ、自ら四區に區分されてゐる。正門を入ると、舊水道の井筒を配置した小庭園の植込があつて、續いて密林で三方を圍まれた小高い丘に音楽堂があつて、上段の特別席には約二千人を容れられる、陽春の頃から晩秋にかけて催す演奏は劉曉たる妙音に心氣を洗ふに足る。堂の南方約七千坪の大廣場は運動場て、各種の大集會に用ひられて居る。運動場の西側に沿ふて約千坪の躑躅山がある、これは造園の當時大久保の躑躅園を移したものであつて、秋草、山吹など配植されて、幾條かの風雅な散策道と、幾つかの小丘上の涼亭などあつて、園の最も雅趣ある部分を爲して居る。躑躅の西には洋風雲形の池があつて、池に臨んだ四阿からは、鶴の噴水を正面に眺め、池濠には藤棚、風雅な橋などもあつて、

東京市の公園

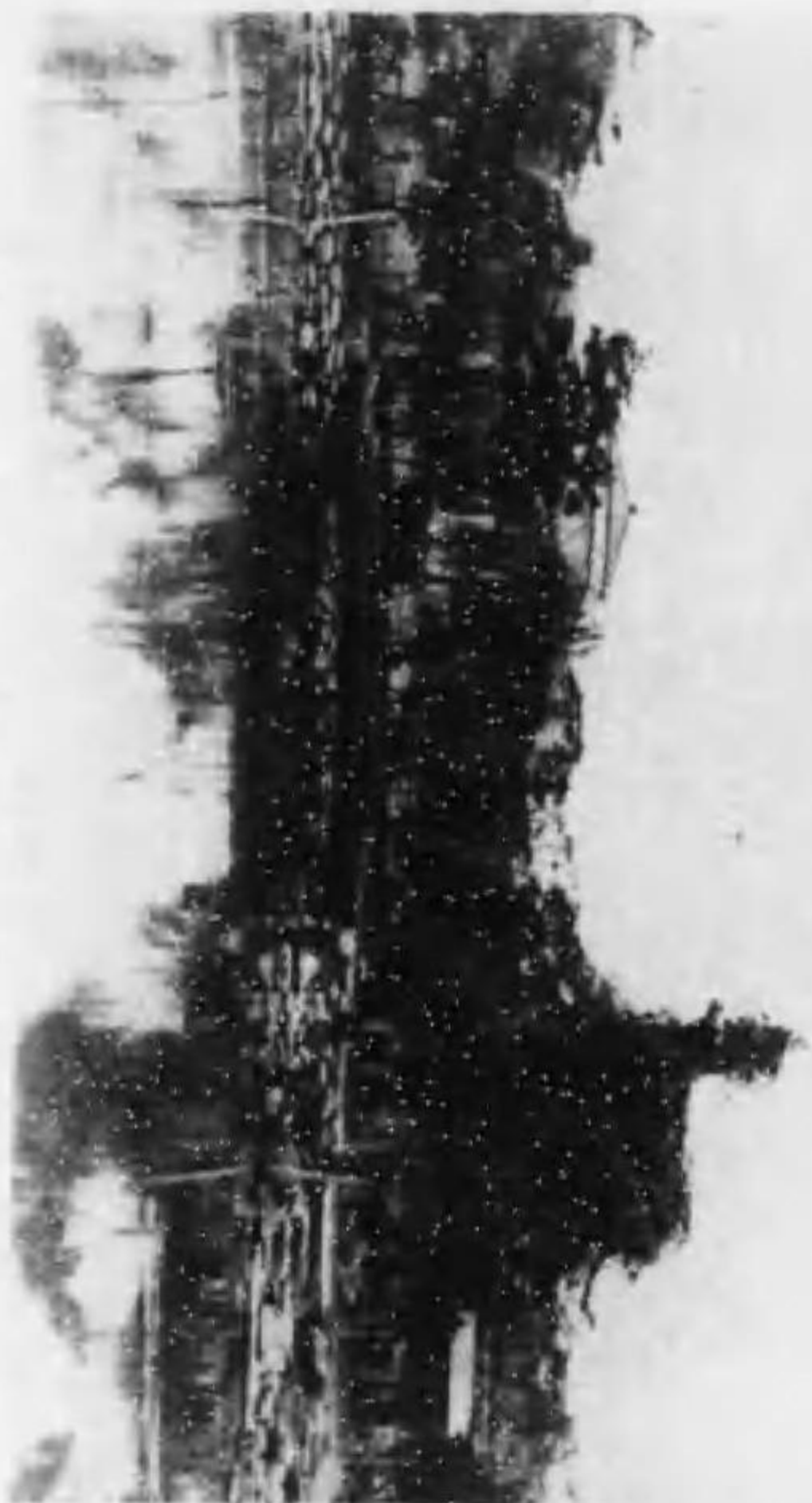
附近は珍木異草を多く配し四季折々の景趣に富み、位置の上からも観賞の上からも園の中心を爲して常に杖を曳く人の絶えることはない。音楽堂の東北區、即正門より右樂門を経て櫻門までの區域は、前區に次いで常に公衆に利用されて居る。此の區の中央には約千坪の洋風芝生花壇があつて、常に各種の西洋草花を或るものは混合花壇とし、或るものはリボン植とし、毛氈植とし春から初冬に至るまで、紅紫とり／＼に装ふて居る。花壇の東南は、舊日比谷見附傍濠池及び石壘を其の儘保存し改造した日本庭園であつて、池の蓬萊島には鶴を放飼して居る。其他池には鴨、鷺、鴛鴦等の水禽が悠々と睡蓮、荇などの間を戯れて居る。石壘上は園内最も冷涼の地として又眺望佳絶の地として著しい。花壇の西北は、花木並標本木の植込となつて居る。園の西北區即ち櫻門より霞門に至る區域は四千坪の芝生、三個の庭球場を中心として北側は高七、五、三米突の三個の丘を築き、其の裏手には飼禽場を始め、青年運動場、兒童遊戯場、動物舎等を備へ、園の西南隅即ち霞門から西幸門に至る間は、各種の樹種よりなる森林地帯であつて、最近には其の内に野外劇場式の大奏樂場を建設し、和洋樂の演奏場が新設された、此處は音樂の外は時としては、他の民衆娛樂又は社會教育的催にも使用される豫定である。座席は三千二百であるが、五千人迄收



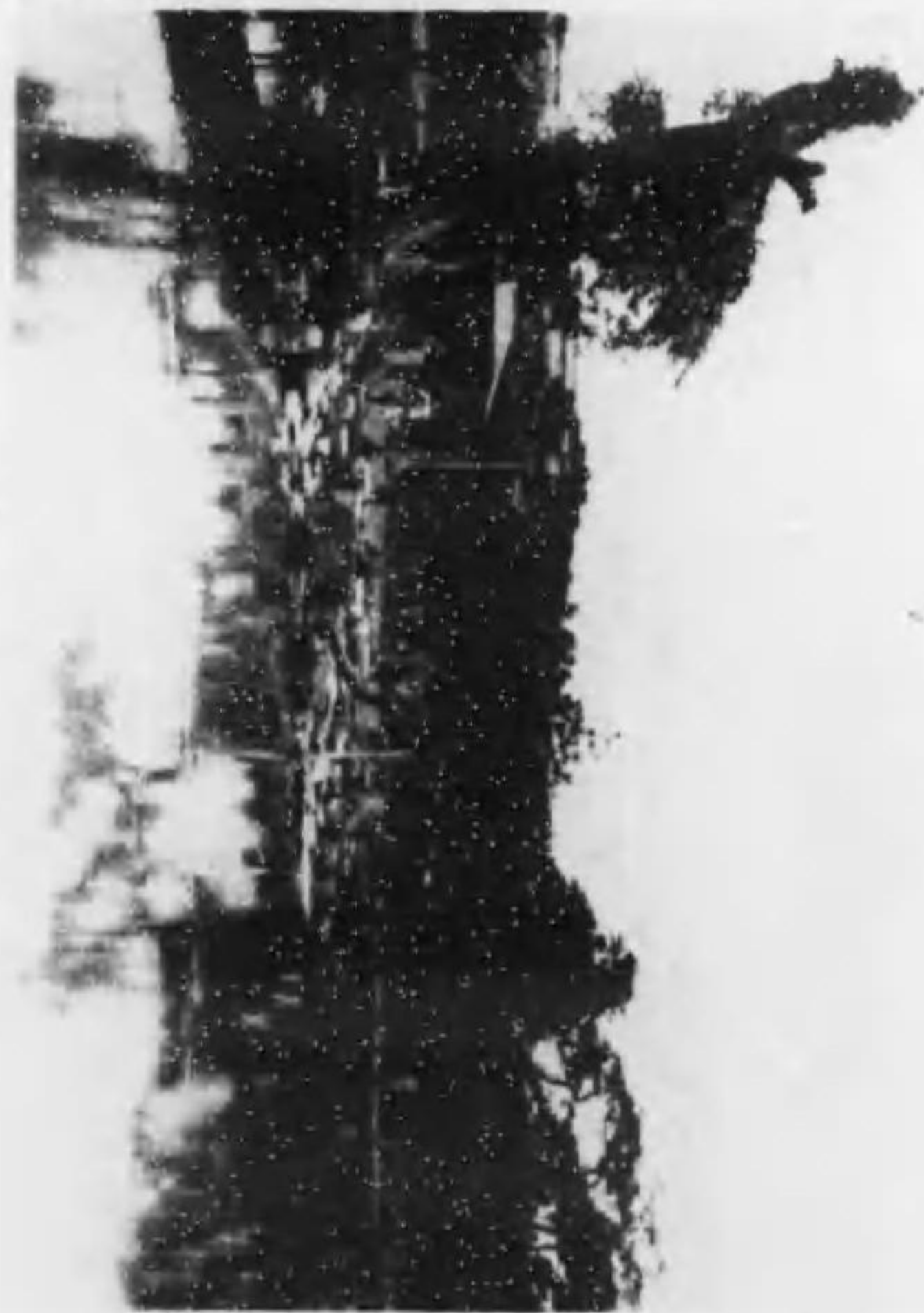
豊島園公町樹



鎌倉園公町樹



(二其) 池園公川深



(一其) 池園公川深

容することが出来る。此の森林區の南即ち西幸門より幸門に至る三角形の小區は、同じく各種の樹種の植栽された美しい森林があつて、其の内に市立圖書館が建つて居る。

園内には休息所を兼ねた松本樓、三橋亭、麒麟亭、高柳亭等の飲食店、喫茶店がある。

麴町公園 (麴町區永田町)

官幣大社日枝神社(元山王權現)の境内で、明治十四年六月公園となる。赤坂見附から芝方面に向つて突出した丘陵の端に在つて、東側は谿谷を爲し、溪流と蓮池とがある。丘上平坦の中央に、權現造りの社殿が東に向つて建ち、登るに二條の石段がある。急なるを男坂と呼び、緩なるを御成坂と云ふ。元山王權現は徳川家の産神として崇敬特に深く、世子が生れると必ず將軍の禮拜があつたものだから、其の時の御成御殿が、舊星ヶ岡茶寮の所にあつた。六月十五日の祭禮は、昔は天下祭とさへ稱へられた程に、頗る壯觀を極めたものであつた。

園内は、多種の老木茂り、松柏類は、多く枯死せるも、常緑潤葉樹は今も尙鬱蒼として、深山幽境にある如く、社殿の壯麗と相俟つて、都市に稀な幽勝清涼の地である。

園内に、かつら、たぶ、やぶにつけい、つばき、しび、とち、きはだの老木がある事は見逃してはならぬ。

秘殿相敬梁棟隆。靈神如水自流通。王城久鎮長山社。武德維新東海風。
我等まで天下祭や土ぐるま。(榎本其角) (林鷲峰)

清水谷公園 (麴町區紀尾井町)

赤坂見附下辨慶橋と喰違門との間にある。元清水が涌出してゐた所から、清水谷と呼ばれるに至つたものである。此の池の傍には維新の元勳大久保利通公が、明治十一年五月十四日登朝の途上、刺客の爲めに斃れたのを惜んだ哀悼の碑が建られた。此の地を二十三年三月、公園とした。二千餘坪の官有地の外に、北白川宮家から千餘坪を借用して居る。全園赤松の林で、風致清麗、正面中央に碑がある、題して贈右大臣大久保公哀悼碑と云ふ。碑の背の崖は、躑躅山であつて、碑の北方には庭園風の池がある。池畔に皆香園と云ふ貸席を兼ねた茶屋があり、碑の南の林間には、運動器具を備へて、兒童の遊戯に便して居る。此處は總數三千坪の小公園で、兒童が自由に



清水谷公園の松林

跳ね廻つて居るが、一步碑の背後の小高い丘に足を踏み入るれば、兒童の喜戯する叫も遠く、別天地に感ぜらるゝ、小公園には稀らしい幽邃な趣のある處である。

贈右大臣大久保公哀悼碑

嗚呼。此贈右大臣大久保公殞命之所也。公之在世。身繫天下之安危。天子倚以爲重。一朝變生。不測。遽焉長逝。悲夫。自古忠臣烈士。死。子非命。者何限。然概在喪亂之世擾攘之際。乃公則功成名遂。遇國家方隆之運。將永享太平之樂。而遭罹此禍。宣乎。九重哀悼。天下識與不識。無不惋惜痛歎也。抑公既以身許國。死生禍福。一聽于天。而不悔。而其所施爲。赫々

在ニ人耳目。則公雖死乎。猶有ニ不死者ニ存焉。
距ニ公之薨ニ七年。過ニ此地ニ者。咨嗟歎息。往々低徊。不能去。於是僚友義故胥謀
建碑。以表追悼。亦情之不可已也。公之勳業。藏在太史。勒在楹珉。此特記建
碑事由。以告來茲。

明治十七年十月

編修副長官從五位勳六等 重野安釋撰
内閣大書記官從五位勳五等 金井之恭書
鐵道二等技師正六位勳六等 毛利重輔督工事

虎ノ門公園 (麴町區三年町)

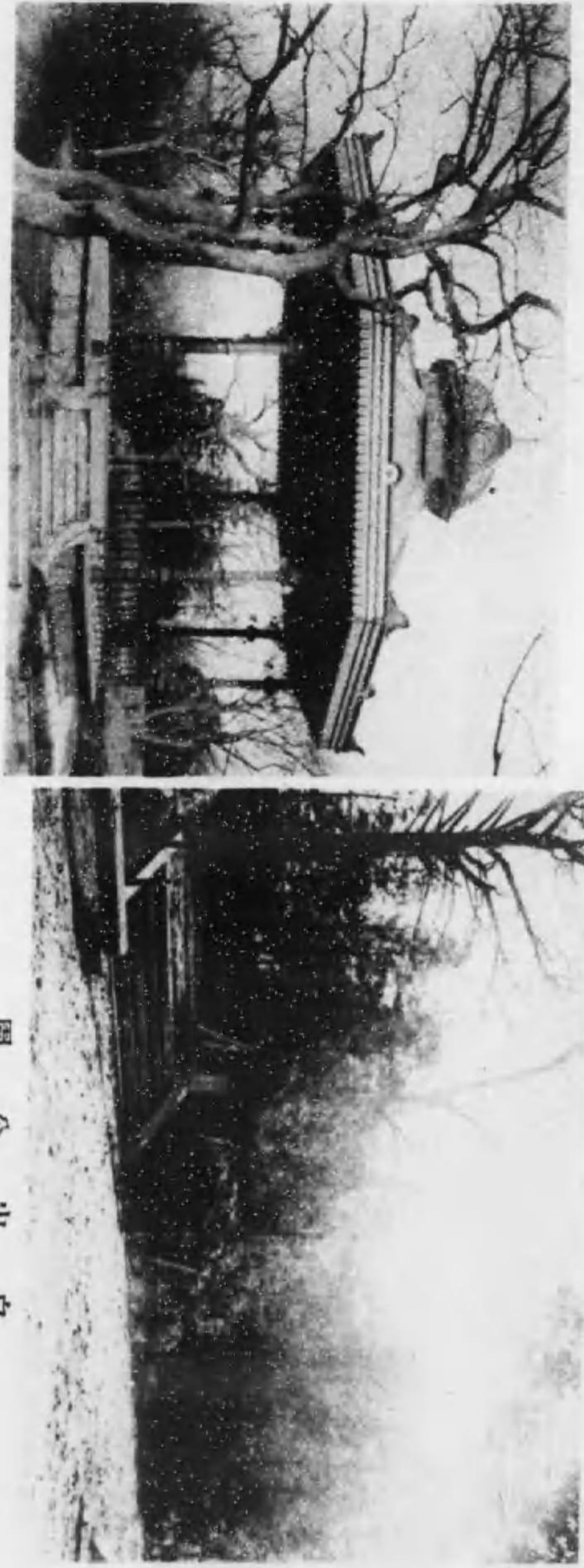
虎ノ門外の濠地を埋めた跡で、麴町區と赤坂區と芝區との境に當る。市區改正に依つて出來た
剩餘地を利用した小公園であつて、電車を差挾んで南北の二區からなつて居る。南部は三角形
をした單純な廣場で、中央には外濠石壘の角石垣と濠池の名残を存して居る。此の石壘遺跡の上



圖 公園ノ虎



圖 公園屋寄敷



千鳥ヶ淵公園の比日

白山公園

に在る藤は家康公手植の藤として、此の地に邸を構へし内藤家に在つたものを、先年榎本子爵が舊地に遺し紀念する趣旨の下に寄附されたものである。

園の周圍は植込を圍し、廣場には、運動器具を備へて在る。北部は宮内省用地にて、南部を兒童遊園としたので、此處は散策本位の洋風庭園としてある。中央に芝生地を設けて、草花を植ゑ、西側の地下水を利用して、溪谷風に植込を作つた。其の下水の北は舊虎の門見附跡である所から、見附の殘材を以て、其面影を存せしめてある、特別の施設はないが、瀟洒たる路傍公園である。

千鳥ヶ淵公園 (麴町區一番町)

東京市の公園

英國大使館前の道路を挟んだ左右の櫻林の一區劃である。公使サトウ氏が大使館前の廣場に櫻を植ゑさせたのが元で、遂に花のトンネルと云はる、様な櫻の名所となつた。大正七年三月公園に編入され、翌八年十二月其の西北隅に小公園的設備をした。其の區域は二段に分れ、上段は半圓形の廣場で中央に水栓を設け、正面の石段、左右の坂路に依つて下段の廣場に下る。廣場は楕

圓形にて約三百坪で、百合木の並木を環狀に植ゑ、運動器具が設備してある。
小公園以外の部分は、在來の櫻の植込で、適當な散策道を設け、多少の灌木をも植ゑ、内濠に面した崖には、洒麗な柵が設けてあるが、宮城の石壘と森とを望んだ雄大な眺めは、櫻花と共に實に男性的な風光である。

坂本公園 (日本橋區坂本町)

元警視廳の避病院跡を利用したもので、明治二十二年七月の開園に係る、東京市の公園中最も古い然も純然たる市街公園である。

園の周圍は、玉石張の小土手を繞らし、其の上にハトヤバラの生垣を圍して居る。内周はシヒを主とした鬱蒼たる植込があつて、公孫樹、七葉樹、槐等の林は市中に見ることの出來ぬ景である。内部は不整形の廣場となり、其の中央には島嶼的の椎の植込と四阿がある。廣場の邊に沿ふて便所、藤棚、運動器具等をも備へ、瀟洒な茶店もある。最近社會局の公衆食堂が、其の隅に建てられ、一般公衆の便に供して居る。

兩國公園 (日本橋區吉川町)

舊兩國廣小路の有名な、見世物で賑つた熱鬧の場所であつて、先年兩國橋を鐵橋に架換へに際し、其の位置を上流に變更した爲め、不用になつた道路敷を利用したもので、明治四十一年十二月一日の開園である。

日本庭園風の手法を用ひた小公園で、周圍には鐵柵を圍らし、入口は東、西、南の三方にあつて、内部の周圍は植込地となり、中央は不整形の廣場となり、東の隅に噴泉と溪流を設け、其の傍に茶室風の四阿がある。南の方には、運動器具を設け、茶席待合風の休憩所がある。

大川に面して居るから、川風涼しく、納涼の期節等は仲々の賑ひである。殊に川開の花火は江戸時代からの名物で、今も尙昔の傳が偲ばれる。

蠟殼町公園 (日本橋區蠟殼町)

道路敷を廢止して造つた小公園である。大正三年九月一日の開園で、箱崎川に臨み、土州橋と

久安橋との間に在る長方形の區域で、周圍には黒松を植ゑ、内部は廣場になつてゐて、並木及運動器具を備へてある。此の公園の水道用栓は舊永代橋親柱を保存利用してある。

淺草橋公園 (日本橋區馬喰町)

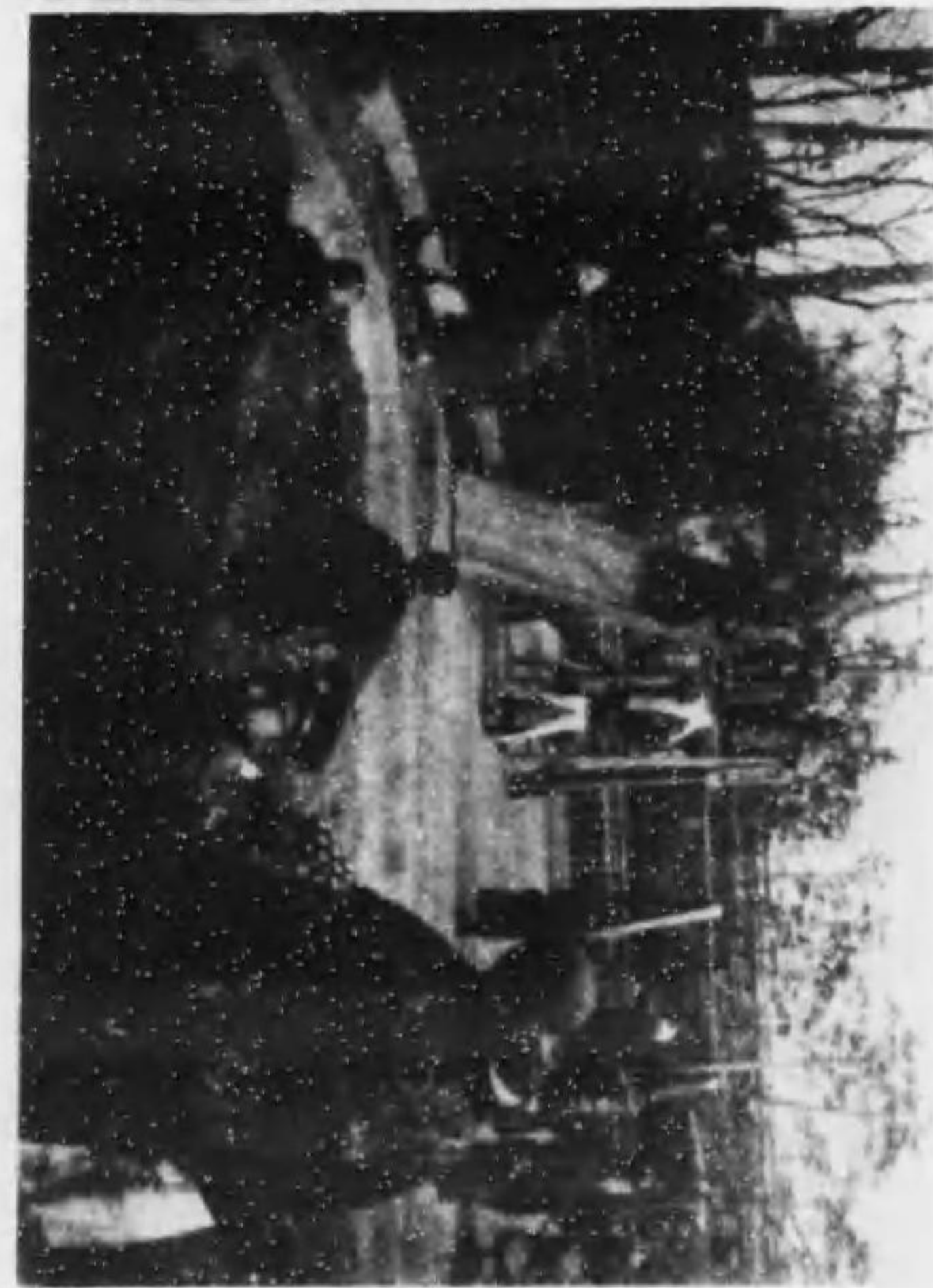
舊淺草橋廣小路の廣場の植込地を改造せるものであつて、大正七年六月の開園である。本園は兒童用の小公園である計りてなく、都市街衢の風致的中心たるもので、虎の門、數寄屋橋の小公園も此の類である。

此の公園は、道路を挟んで相對した大小の二區に分れて居る。東部は、少し廣い四角形の區域で、中央は楕圓形の廣場になつて居て環狀に並木を植ゑ、西に寄つては、鐘樓風の四阿を設け左右に松の植込がある。園の周圍には、簡単な石柵を圍し清酒な植込を設け、外部からの風致にも重きを置いてある。

西部の小區は、周圍は前區と同じく植込で、内部は全部を兒童用遊園として、西半に砂場、東半に運動器具を備へて居る。周圍植込地内に道路に沿つて巡查派出所と、撒水用井戸とが嵌め込



淺草橋公園



淺草橋公園砂場

園公の市京東



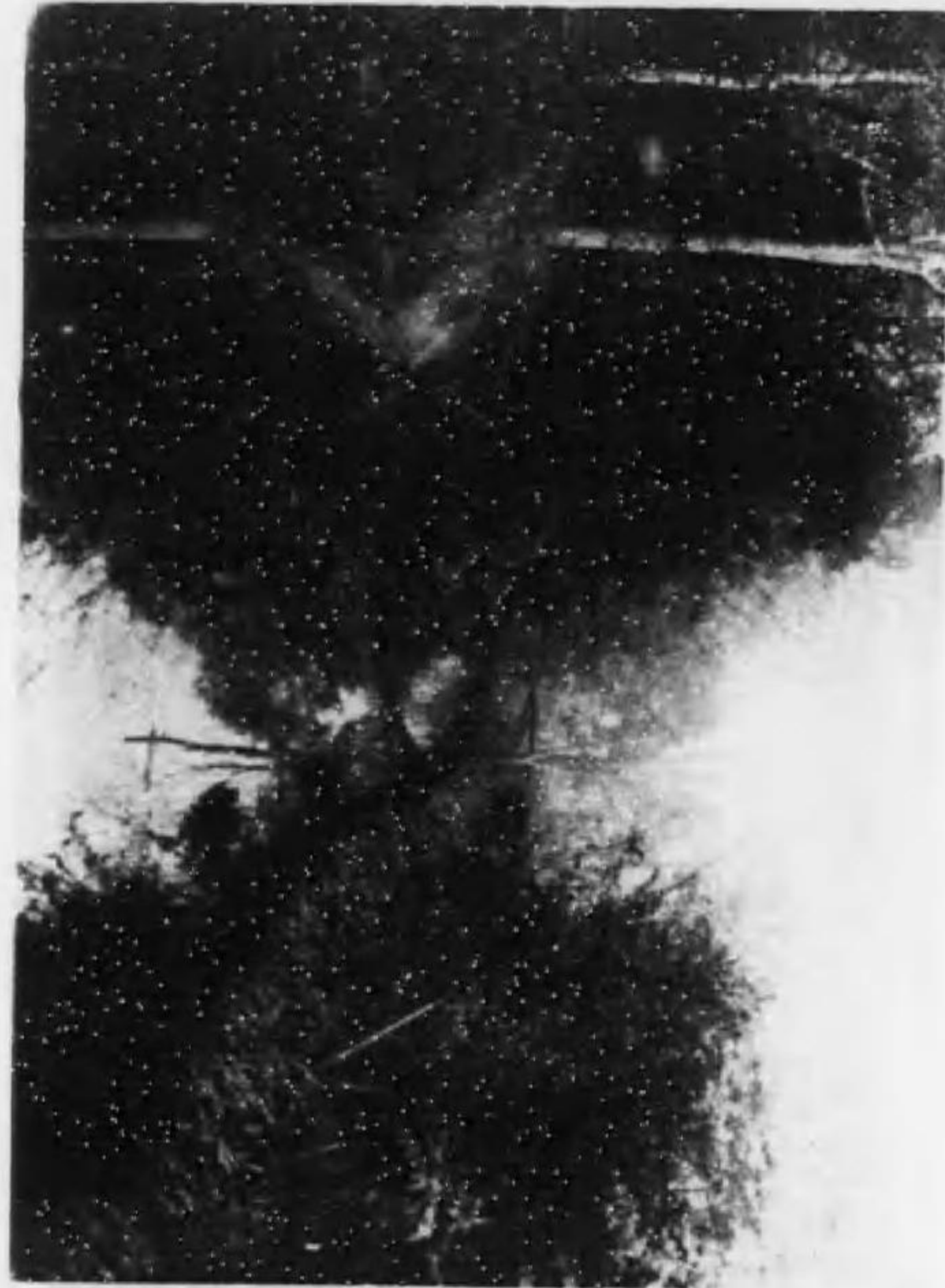
園公橋屋數

まれてある。これは街路の整理と風致の爲めに公園地を利用して居る例である。

數寄屋橋公園(京橋區 元數寄屋町 四組屋町)

舊外濠の一角を、先年市區改正の際道路が貫通した結果出來た三角形の残地を、利用して造つたものである。大正三年五月一日の開園で、周圍には低い鐵柵を繞らし、入口を五ヶ所に設け、門柱の上には植木鉢を飾り、内部の周圍には、丈の高い植込地を圍らし、中央は廣場で、イタリヤボブラを以て圍み、北端には京橋區忠魂碑を建て周圍を壯麗なる常綠樹で圍み、南側の電車通りに沿ふて、園内と園外の兩方面から使

池邊園公園の一角



園公町公園



へる洋風の華奢な四阿が設けられてある。

芝 公 園 (芝區芝公園)

大部分は元三縁山増上寺の境内であつたが、明治六年太政官の布告に依つて、初めて上野、淺草と共に公園になつたものである。

公園の大半は、赤坂麻布の臺地が、東に向つて芝浦方面の低地に突出した端に當り、山丘起伏し老樹鬱蒼として景勝の地を占めて居る。園の中央部は、關東淨土宗の總本山である増上寺を始め、徳川家の靈廟、東照宮等がある。御成門から芝園橋に至る南北を貫通する大路の東側は寺院及住宅地で、公園の設備のあるのは、電車通りに沿ふた表側丈である。其の他の主要道路は、御成門から銀杏坂を上り紅葉瀧前より辨天池を過ぎ、赤羽根橋を経て丸山下を周り芝園橋内て、山門前通りに連絡する回遊道路と、園の東端大門より山門横通りを経て、紅葉坂を登り飯倉四辻に通ずる東西貫通道路である。

園内は、此れ等の道路を主として二十五區に分たれ、増上寺及び御靈屋を中心とする區域を第

一區とし、其の西部は瓢形の大古墳で有名な五重塔のある丸山であつて、老杉亭々として天を擡する密林を爲し、自然の森林公園である。丸山の南には東照宮があり、境内に二十一尺を圍つた大銀杏がある。社祠に續く梅林には秋草を植栽して散策の區域としてある。丸山下から南の古川端迄の間は、廣々した四千坪の大運動場で、古川に沿ふた土手には、黒松を主木とした日本庭園風に築造された連丘がある。運動場の西には、角筈の銀世界を移した有名な梅林がある。梅林の西は妙定院で、院と赤羽根橋際入口との間には、各種の運動器具を設備した運動場がある。丸山の西北の崖下にある谿間には、辨天池の池があつて、幽邃な景勝地である。此の池の下流は幽雅な自然的の溪流となつて、丸山の麓を周り東照宮傍に至つて居る。池の西方道路を距て、飯倉通りとの間に、大躰躰園がある。辨天池に落ち込む溪流に沿ふて遡ると、常緑樹の畫向暗き幽境に入り、懸崖に一飛瀑がある。是れを紅葉の瀧と呼ぶ。瀧の附近は一小仙境であつて其の末流は自然的の細流となつて辨天池に灌いて居る。紅葉瀧の西の急な坂は紅葉坂と稱へ、之れを登ると舊能樂堂跡に三縁亭があり、其の西に更に紅葉館がある。紅葉館前の道路を距て、北は、徳川時代に僧録司の職を執つた有名な金地院で、本光國師(崇傳)が江戸城から移つたのに因んで、此の附近を

東京市の公園

紅葉山と稱へ、山楓が多く繁茂してある。紅葉館傍より飯倉へ通ずる溪谷の道路は、老樹鬱々として深山幽谷の觀がある。此の道に沿ふて小川がある、之れは隣地瑠璃光寺の庭園を往年公園に買収したものである。紅葉坂下より北は「ヒマラヤ」杉を主とした森林で、林間に小運動場がある。北方二十五號の高地に至れば全市の大半を眼下に開展する景勝の地である。銀杏坂下から御成門附近は、松原と稱へ方形に區劃された老松林で、山門の前も同様な松原が芝園橋際まで続き、松籟俗塵を拂ひ、清新の氣に満ちた史蹟を中心とした最も自然味の豊富な森林公園である。

芝公園内増上寺山門前松原



愛宕公園



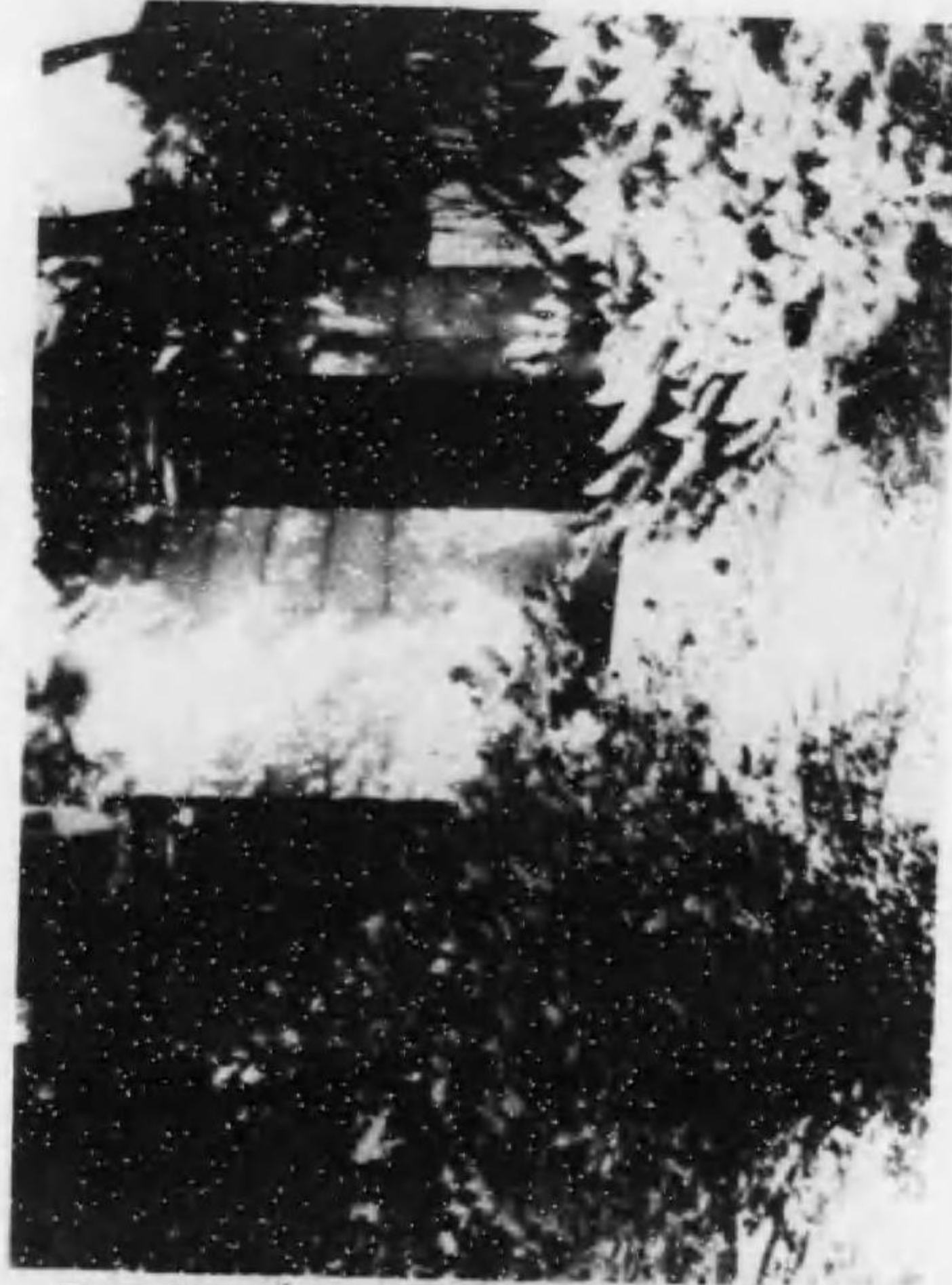
待乳山公園



愛宕公園 (芝區愛宕町)

芝公園の丘が北の突出した尖端に當り、愛宕神社の元境内で、明治十九年三月公園となる。東西南の三方は屹立した崖地で、東側は常緑闊葉樹、西北は老樺の密林を爲し、山頂は平坦で、登るに三道ある。東方の正面は男坂とて、八十六階の石段懸崖の様に直立し、急峻なる爲め鐵鎖を中央に設け登攀に便にす。昔間垣平九郎此の急坂を騎馬にて上下したと云ふ事は有名な傳説になつて居る。明治十五年、宮城縣八百川某の騎馬で上下した紀念の額もある。其の傍に女坂とて、稍緩な坂がある。北より登るを新坂と稱し、明治二十四年頃愛宕館を造つた當時出來たものである。公園としてその施設は殆んどないが、山上の眺望は眼界の廣闊、城南第一と稱せられ殊に夏期は涼風海より到り納涼の好適地である。古來雪月花(八重櫻の名所なりしも今は少し)の名所になつてゐる。

宍山高倚勝軍宮。晴日登臨積水東。江樹千重連閣下。海雲一半傍城中。祇憐精衛仍含木。誰識鷗鯤忽擊風。羞殺魚鹽都會地。治生無似陶朱公。



愛宕公園の風景



愛宕公園の樹木

昔傳寰外有方壺。今見三山入地圖。貫月乘槎銀漢接。浮龍開戶玉樓殊。城雲日對扶桑動。嶽雪晴臨漢渤孤。時聽傳遊瀕海殿。魚壘應獻夜光珠。

(服部南郭)

乃木公園 (赤坂區新坂町)

舊乃木邸及び乃木神社を中心としたる小公園であつて、舊乃木邸は故乃木大將の遺言により土地建物全部を大正二年二月その遺族より本市に寄附せられたものである、市は既に隣接地數百坪を買収して公園的施設をする筈で、目下建築中の乃木神社が竣功すると同時に、瀟洒たる遊園が出来ることになつてゐる。

白山公園 (小石川區白山前町)

白山神社の元境内で、明治二十四年五月公園になつた。小高い丘に據り、昔は老杉鬱蒼として畫尙ほ暗く、杜鵑の名所であつた程であつたが、近年其の老杉全く枯れ果てて大正九年に現代的小公園に改造したものである。即ち中央を楕圓形の廣場とし、周圍には檜及椎の密林を繞らし、其の片側に運動器具を備付け、附近に洒麗な植込を設けた兒童本位の小遊園である。

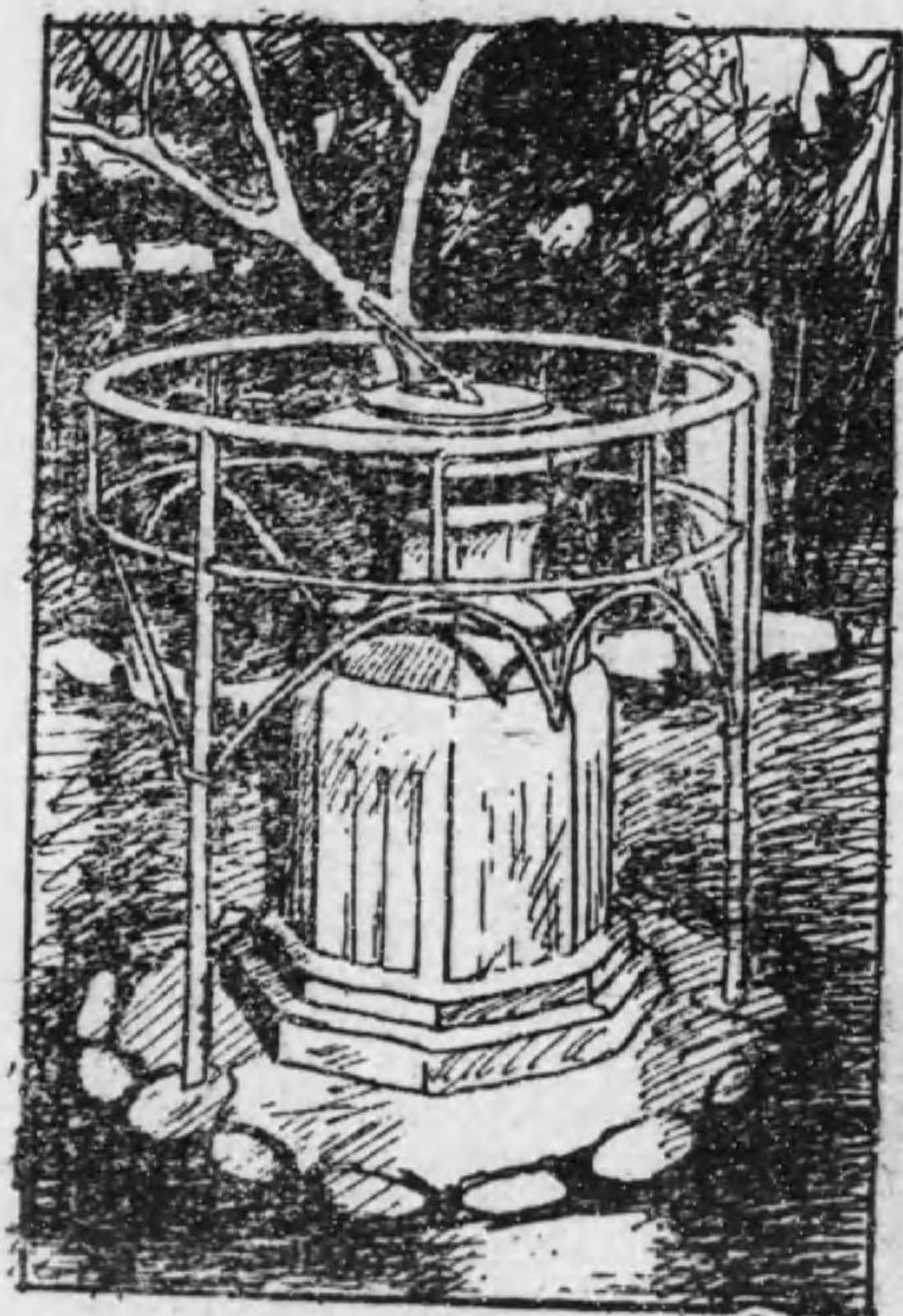
江戸川公園 (小石川區關口町)

舊神田上水路關口洗堰の附屬地で、北は小石川臺の斷崖にて、南は江戸川に沿ふた細長い地域である。開園は大正八年三月二十五日。東の方は江戸川橋際に正門があり、四阿、運動器具等を備へ、兒童本位の小公園的設備がある。西方は、老樹叢林鬱鬱として、上水路並に崖を蔽ひ、恰も深山溪谷に在るの思ひあらしめる。洗堰は關口の大堰として、納涼に、水泳に、古來有名な所である、此の公園の特色は、極めて自然味に富んだ散策地、納涼地である、崖上の眺望臺よりは牛込早稻田方面は一望の内にある。

湯島公園 (本郷區湯島梅園町)

舊湯島天神の境内で、明治二十三年四月公園となる。湯島臺の東北端にあつて、南から登るを中坂、東の急な坂を男坂、緩なるを女坂と稱へ、北方は一つを切通し坂、一つを新坂と云ふ。園

内には梅と榎とを植ゑてあるので、春は馥郁たる清香薫じ、秋は又花よりも赤き紅葉の眺め亦一

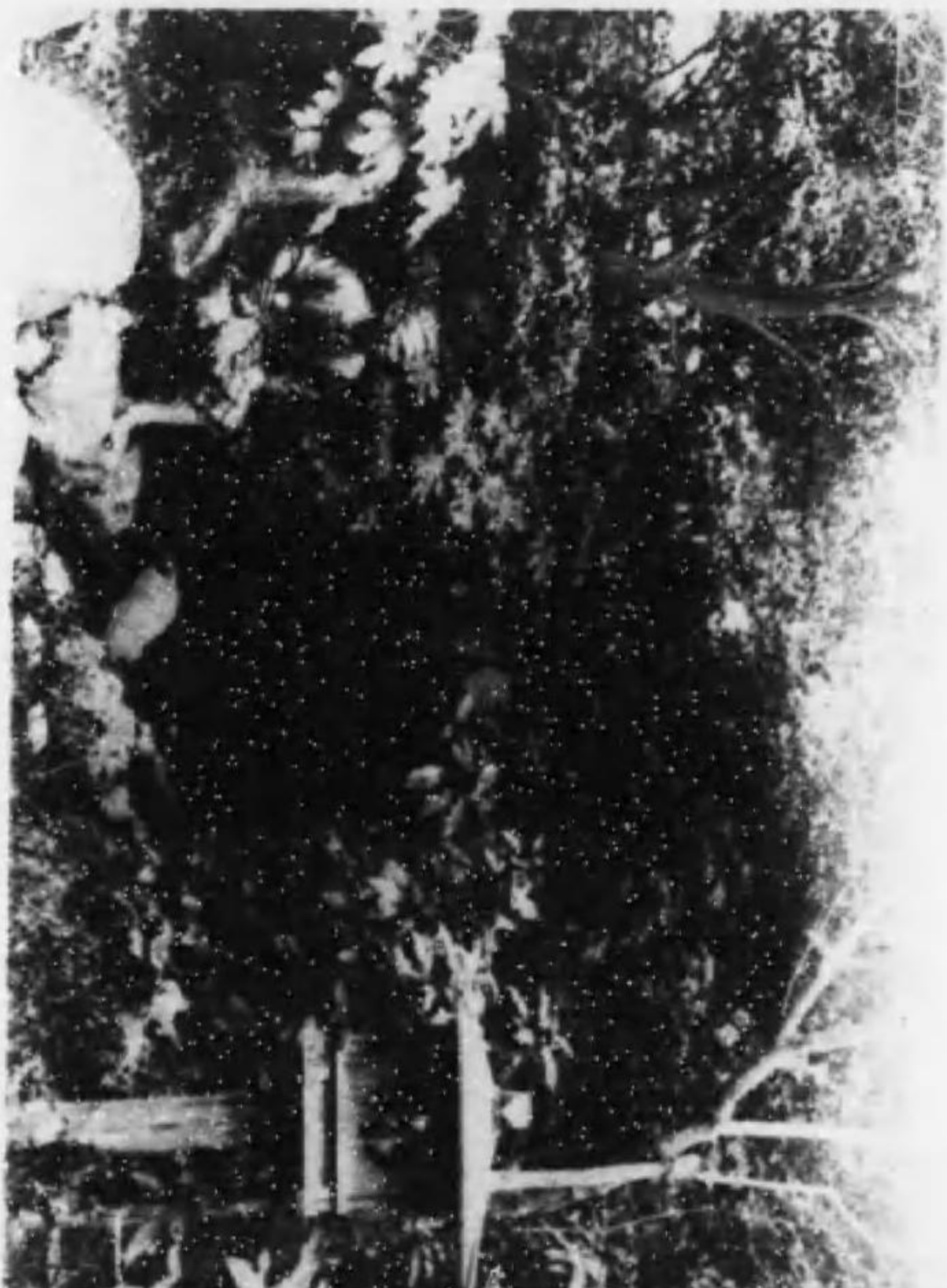


湯島公園内日時計

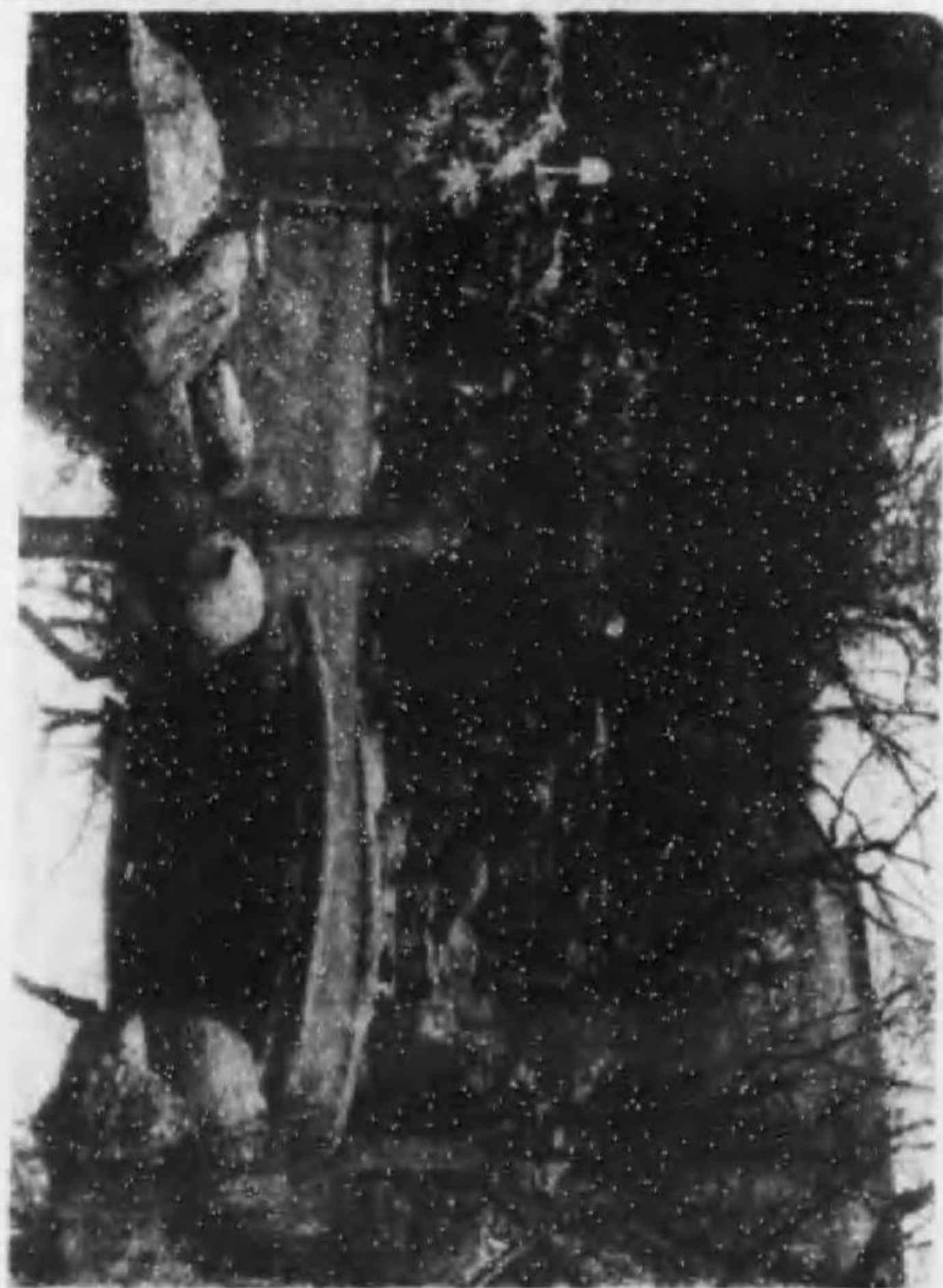
入てある。湯島天神の社殿、神樂殿、額堂を始め、戸隠明神、笹塚稻荷等の小祠がある。梅林中には、附近の有志の寄附になる御大典記念の養老孝子銅像、養老瀧及溪流がある。又一隅には運動器具の備あり、又梅林内に石橋式日時計が据付けてある、これも附近の有志の寄附に依るものである。

園は所謂湯島臺の一角に位するを

以て、東は數丈の斷崖にて、下谷の低地を眼下に、近くは上野の森に相對し、遠くは市内の大半を一眸の内に窺む、故に初日出、二十六夜、或は月見には、古來著名の場所て、愛宕山並に神田



湯島公園養老銅像



湯島公園梅林

東京市の公園

神田明神前に在り、市區改正當時聖堂裏を貫き新道を開設した際に残つた空地を利用したもので、洋風設計をされた小公園最初のものであつて、路傍公園とも稱すべきものである。開園は明治四十五年五月四日、短冊形の細長い公園であつて、周囲には蕭洒たる鐵柵を廻らし、

御茶ノ水公園

(本郷區湯島三丁目)

遍。西都北野又東陔。

(林鷺峰)

雪。曉天粧就誤飛梅。

(松永昌三)

菅神祠廟倚松開。西府東都自在來。一夜翻風枝上

明神と共に、市内眺望の三名所である。



御茶ノ水の公園

(53)



本郷區湯島三丁目



本郷區湯島三丁目

入口は石積の小門を四ヶ所に設けてある。中央は廣場で、南方の庭園風になつた所に日本風の四阿がある。北方には運動器を備へ付け、人家に接した方には、シヒを密植して遮蔽してある。

下谷公園 (下谷區竹町)

舊佐竹侯邸宅の跡である所から、世俗佐竹ヶ原と稱へ、兩國や筋違等で興行して居た見世物類が取り拂はれた爲めに、其れ等が一時此處に移つて、淺草に劣らぬ遊覽地となつたが、後には寂れて仕舞つた。明治二十三年三月四日公園に編入されたが、未だ公園の施設に着手しては居らぬ。

淺草公園 (淺草區淺草公園地)

淺草寺の舊境内が大部分で、明治六年太政官の布告で公園に編入されたが、江戸時代から有名な庶民遊覽の場所である。往時は觀音堂を中心として、北を北谷、東を東谷、南の仲店に當る所を南谷と云つたものだが、公園になつてから七區に分けた。一區は觀音堂附近、二區は仁王門前の部分から仲店の敷地、三區は傳法院のある所、四區は觀音堂西の植込地から瓢箪池附近、五區

は觀音堂の北、六區は大池の西から南に掛けて一帯、七區は仲店の兩側馬道一丁目二丁目及辨天山の西南馬道三丁目を云ふのである。

雷門は、今は只其の名稱を礎石のみに残つて居る許りて、仲店から敷石道を踏んで仁王門を入ると、正面が觀音堂で、其の周圍を取り巻く見事な銀杏の大木を見るであらう。尙ほ仁王門を入つてすぐ右手には五重塔及經堂がある。收むる所の元板大藏經は國寶になつてゐる。塔の南にある小高い丘は、辨天山で鐘樓が建つて居る。鐘は上野か淺草か」と詠じたのは、此の鐘である。丘の下は、以前池であつたのを埋めた跡で、兒童の運動場になつて居る。觀音堂の東にある門は、二天門と云ひ、其の北に三社と稱し、觀世音を此の地に奉祠した人を祠る淺草神社がある。觀音堂の西には、淡島堂の池があり、鎌倉時代と傳へられて居る六地藏の石燈籠は、香煙の絶え間がない。

觀音堂の背後の廣場には、龍神の大噴水がある。其餘水は流れて淡島池に入り、夫れから植込の間を西に流れて瓢箪池に入る。其の流れを九十九川と稱んで居る。淡島堂の西は、櫻、其他梅、楓等の植込になつて居て、間々幾星霜を闊した老木も尠くない。之れより西は、花木を植ゑ散



浅草公園の二十階展望

築地として林間に道を通じ、瓢箪池附近は、高低あり、布石、林泉の配置等頗る風趣に富んで居る。六区の池は、田圃を埋立る爲めに掘鑿したもので、風致ある中島には八ッ橋を架けて渡行に便し、大池の西及南は興行物の指定地で、活動寫眞其他の興行館、飲食店等軒を連ね、通路は人造石の舗道に改められたので、往時の面目を一新する様になり市内随一の民衆的歡樂境である。観音堂の西南にある傳法院の庭園は、小堀遠州の作と傳へらるもので、自然の風致ある國寶的林泉である。其他公園内には、種々の堂宇多く、飲食店、遊戯場等娛樂の營業が多く、庭園的の地域は、約二萬坪位に過ぎない。



若宮公園



今戸公園



園 苗 深 根 羽



園 公 淵 ヲ 鳥 千

昔年遺記富成。弘誓海中曾度生。又爲詩人一身現。白衣仙子白花櫻。
觀音のいらかみやりつ花の雲。

(藤原惟高)
(松尾芭蕉)

今 戸 公 園 (淺草區地方今戸町)

山谷堀の上流に沿ふた日本堤の下に當る所で、明治四十四年、吉原の大火に依つて、火除地として公園に編入されたが、開園は大正三年十二月五日。單純な小公園で、周圍は植込を繞らし、道路沿ひに玉石積の門並柵を設けてある。内部は廣場で、綠蔭樹を散植し一隅に運動器具を備へ付けてある。

(57)

待 乳 山 公 園 (淺草區聖天町)

舊聖天堂の境内である。従前は淺草公園の附屬地であつたが、大正六年五月低地に盛土して、小公園の設備をした。聖天堂のある待乳山の小高い丘は、隅田川を上下する舟の眞帆片帆の白きを望み、竹屋の渡から向島一帶の景色を眺める景勝の地で、古來の名所である。丘下の廣場は、

周囲に植込があり、運動器具を備へて、児童の運動場としてある。

偃跡祠壇落日浮。金龍降飲大江流。章臺柳住長堤色。玉樹霜分兩岸秋。鼓瑟兼含鴻雁渚。吹簫別起鳳凰樓。始知天上憐秦匹。不似人間對楚愁。
(服部南郭)

緑町公園 (本所區緑町)

舊津輕屋敷跡で、下谷公園と同じく、明治二十三年三月四日公園に編入されたけれども、未だ公園の施設をするに至らない。

若宮公園 (本所區若宮町)

向島牛島神社旅所の境内で、明治四十四年七月公園に編入されたが、遊園としての設備が出来て開園したのは、大正五年五月十一日、園の入口は、南北にあつて、南を正門とし、風致ある石垣、小土手を繞らし、神社の鳥居を其儘に存し、附近に黒松、椎を主木とした風致ある植込がある。中央は廣場で、園の周囲と社殿の側は常緑樹を主とした植込としてある。北口に近く、運動器具其他公園として必要な施設が備へてある。

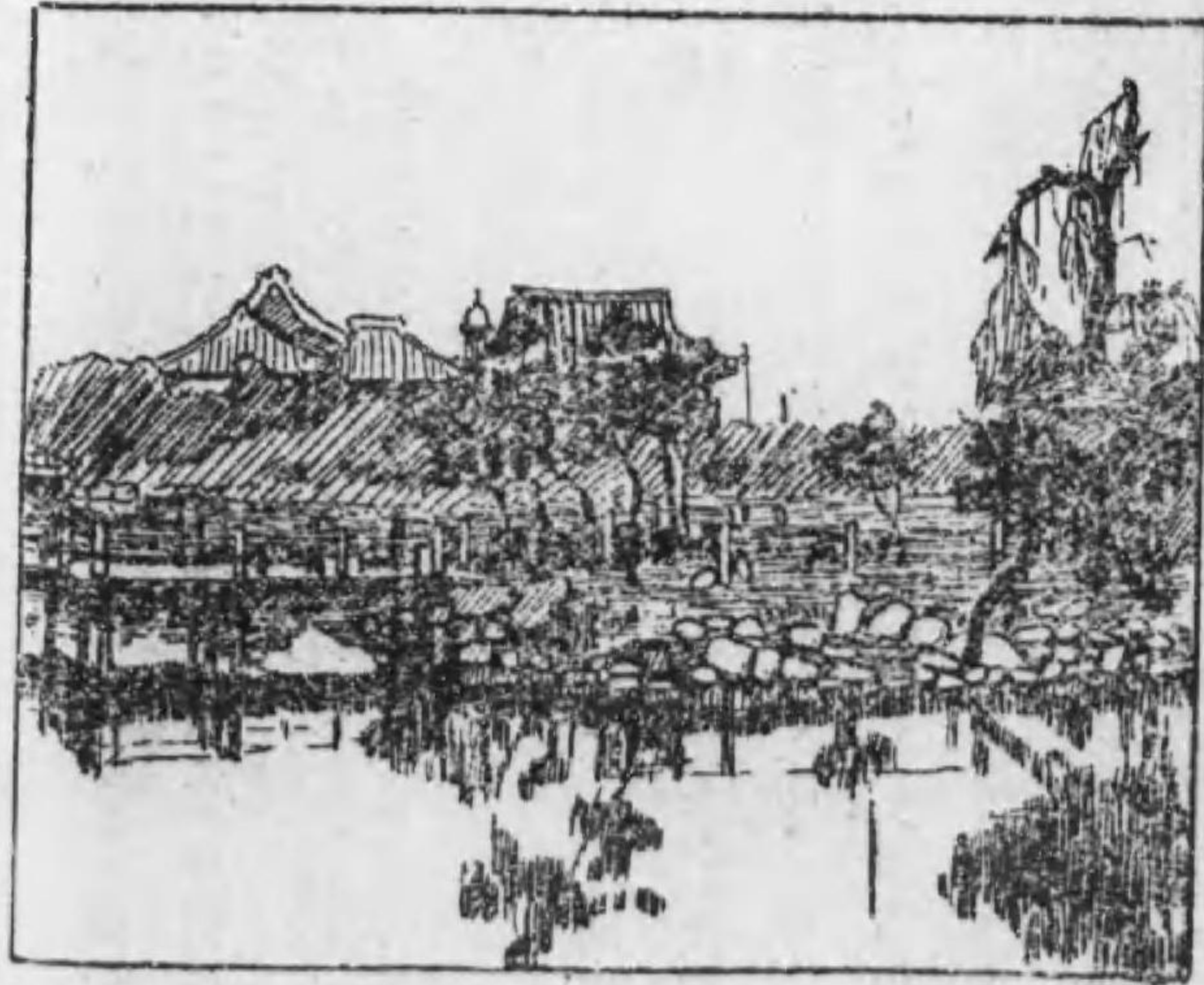
此の公園は神社境内を小公園に供用して居る好適例であつて、神社境内としての崇嚴な風致を維持し、神社と公園との事に、何等不調和な限界を設けることもなく、附近の児童は、其の氏神様の社前で嬉々として遊んで居るのである。

深川公園 (深川區深川公園)

舊深川八幡宮境内で、明治六年芝、上野、淺草、飛鳥山と共に公園に編入された。北は油堀に臨み、東は入堀を以て限られ、南及西は先年迄構堀が廻らされてあつたが、今は埋立られ廣路となつて櫻が植ゑられて居る。此の廣路に面しては洒麗な鐵筋混凝土の外柵が新しく圍されてある。電車通りに面した東寄りの八幡宮の門から入れば、太鼓橋を渡ると、一段高くなつて、権現造りの社殿がある、社殿の南は廣場で、周圍に元祿の才姫岡女の歌仙櫻を再興した櫻の植込があり、東の端に神輿庫、南の端に歌仙茶屋(四阿)がある。社殿の東には辨天池があり、正面鳥居道の西には児童用の運動場があつて、各種の運動器具が設備され、便所、管理者詰所がある。社

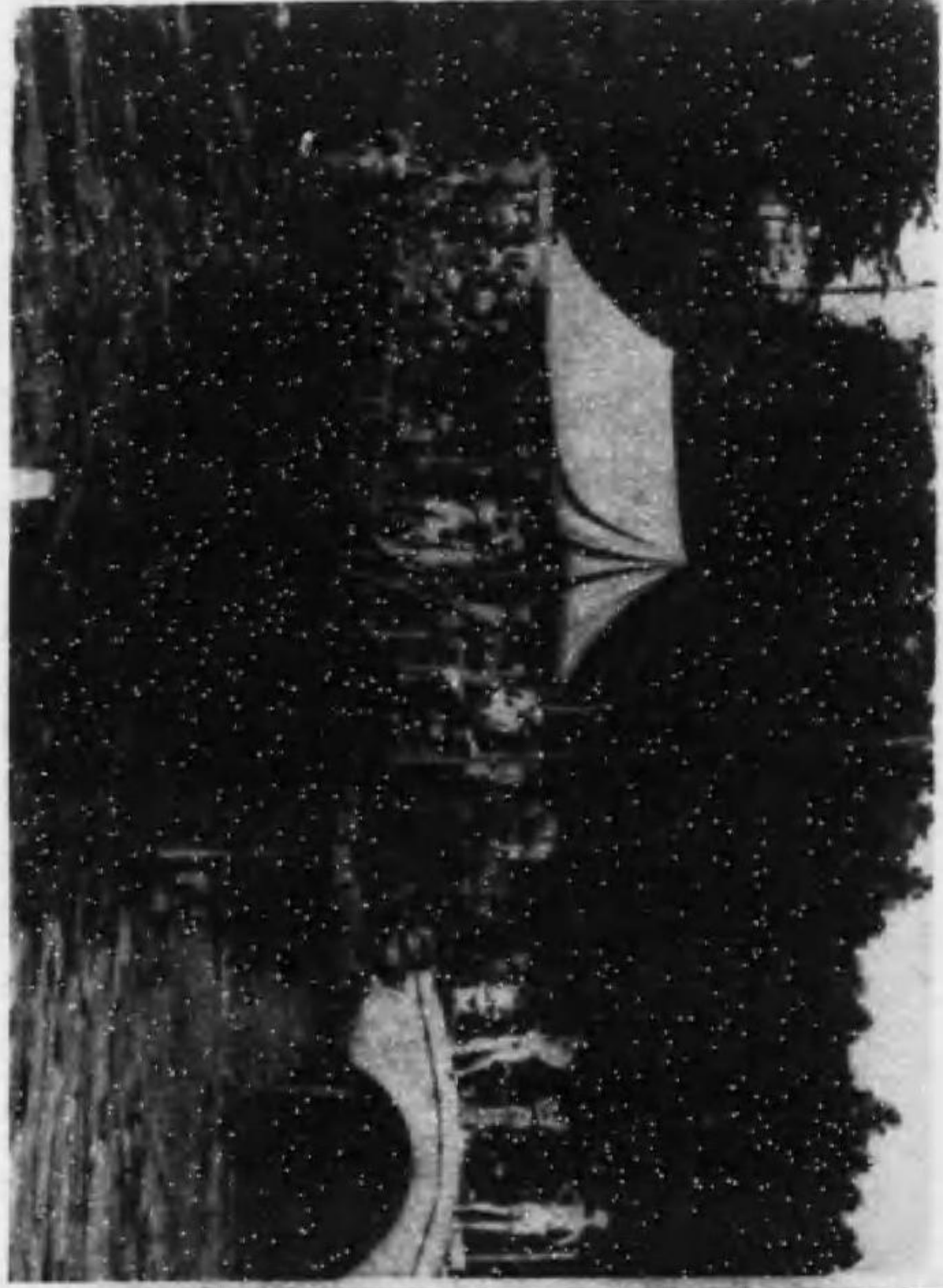
東京市の公園

の北には富士の築山があつて、裾に池を圍らし雅致ある小庭園を爲してゐる。池の南は廣場で、植込になつてゐるが、更に南の方には、方形約七百坪の運動場があつて、周圍に綠蔭樹の植込がある。西の續きは、堂宇、又は住宅家屋になつて居る。不動堂の西一帯の區域は近年整理改良されて、純然なる公園の態を爲して居る。此の區域は約七百坪の橢圓形運動場と潮入りの池とよりなつて居つて、池には江戸庭園風の中島を設け、風雅な林泉の面影を残して居る。池の南の大運動場には、櫻の植込があつて、南の隅に、市設圖書館がある。八幡宮の別當であつて此の地を築いた緣故のある有名な永代寺は、維



深川公園の大池

(00)



井頭公園水泳場



井頭公園児童遊園池

新の神佛分離の際に、廢寺となつたのを再興して、不動堂の入口にある吉祥院を永代寺と稱へて
る。



永代寺



吉祥院の井

永代島九景

- | | | |
|------|------|------|
| 武江錦城 | 三島閑月 | 華表白鶴 |
| 海上遠帆 | 西嶺夏雪 | 筑波双峰 |
| 羽田漁村 | 總房連山 | 靈岩晚鐘 |

隱人是誰軒

大室 史

詩曰

土峰雪白築波青。外有錦城映日殘。華表鶴眠三島月。叢林鯨吼八幡扇。羽田漁網通宵引。
東海客船到此停。山岳長連總房浦。風煙極處自冥々。

飛鳥山公園 (府下北豊島郡王子町)

徳川時代から櫻の名所として庶民遊覧の場所であつたのだが、明治六年初めて公園設置と同時に、公園となつた。丘陵の端に當つて、東側は數丈の斷崖になつて居るから、眺望開豁で、日光筑波、鴻ノ臺、荒川等遠近の山水、一眸の中に收め得る景勝の地である。享保年中、林大學頭(信光)は、十二景を撰び、元文中成島道筑が建てた飛鳥山の碑は、中央にあつて、此の沿革を語つて居る。全園芝草地であつて、往昔の老樹は凡て枯死し、今は松及櫻の若木が散植されてあるのみである。

瀧野川町の大通りに面した方は緩かな勾配で、數ヶ所に入口を設けてあるが、東の方には二ヶ所、北の方には一ヶ所急峻な坂路があるのみである。東側の急な崖下には、東北本線が通じて居るので、其の煤煙に堪へる椿、青木等の常緑樹が櫻の大木の下に密植されてある。

櫻は今も殆んど染井吉野であるが、花見の季節は一重櫻のお花見の最後になつて居る。其の時には今日も尙極めて自由な花見場所として、大抵な假裝行列なども茲ばかりは大眼に看られて居る。

飛鳥山 十二景

總波茂陰

秩父遠影

瀧野川夕照

梶野村田家

王子深樹

平塚落雁

鴻臺秋月

染井夜雨

黒髪山殘雪

豊島川歸帆

中里晚鐘

西原晴嵐

析枝の色香をみすはあすか山はなのところの春もしられじ

(冷泉爲久)

櫻花さくときいついゆきて見ればたゞ白雲の峰にたなびく

(田安宗武)

飛鳥山あすといひそけふみずばあすは雪とや花もちるらむ

(松平定信)

井ノ頭恩賜公園

(府下北多摩郡武蔵野村及三鷹村)

舊帝室御料林であつたのを大正三年本市公園の爲めに御下賜になつたもので、開園は大正六年五月、中央線吉祥寺驛の南約五丁の所にある。地勢自から二つに分かれ、正門から西に當る臺地は武蔵野村に屬し、御殿山と稱へ、檜・楡、ソロ等林を爲して居り、其の西の端に、東京市養育院の少年感化部である井ノ頭學校があり、西南は、小金井に續く玉川上水路に臨んで居る。正門から東の方は、一段低い所謂谷戸となつて、其の底にY字形の井ノ頭池があつて三鷹村になつて

居る。池は舊神田上水の源で、池水清冽滾々として湧出し、清冽透明なることは水底の美しい水草、魚族をも窺ひ得べく、水禽魚族、植物等學術上珍とすべきものがある。

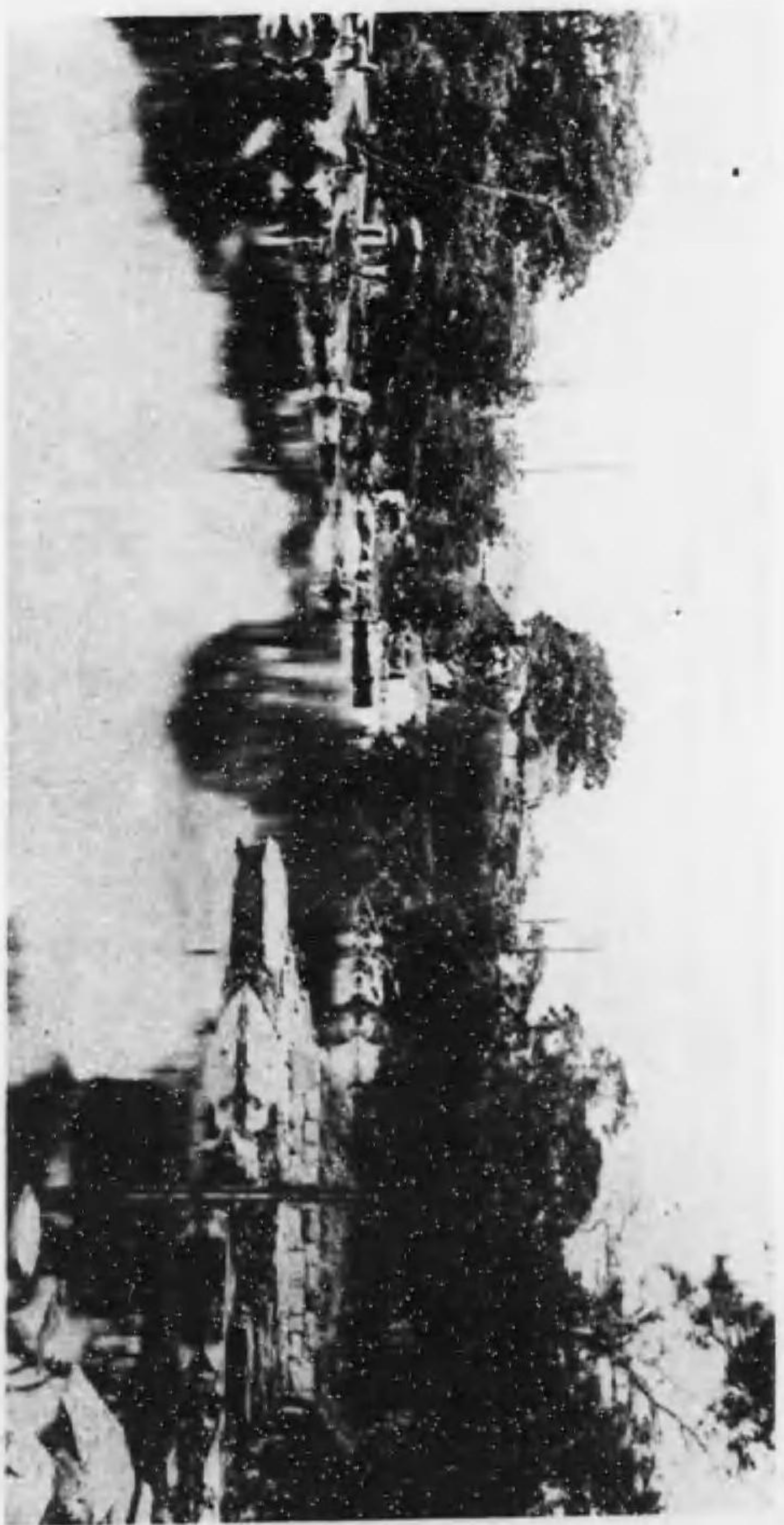
池に臨んで辨天の祠があり、周囲は亭々たる老杉の密林で、晝尙暗く其の傾影を平靜な水面に投ずる光景は實に偉觀である。東端水門に近くに廣場があり、大正十年此處に、兒童用の庭園的徒涉池と、長さ六十米突の水泳場の設備をしてから、夏などは一層賑を極めて居る。其他池の出島の突端から左右へ、橋を架けて散策に便し、池に沿つた散策道には、各所に腰掛があり、茶店も所々に設けられてある。郊外の公園として、又自然の森林公園としても、都人士の散策に適當な所にあるから、春は花に、夏は納涼に、秋は紅葉に日曜祭日等は仲々の賑ひである。

うまし水三井の頭は人くさのいのちなりけりむさしの、原

(鈴木重胤)

四谷公園 (四谷區須賀町)

須賀神社の境内で、明治二十二年公園地として市區改正の設計に編入せられたものであるが、未だ何等公園的施設を見るに至らなかつたが漸く大正十一年に至り、境内東半部にある旅所の空



(園庭神田安善)園公田安

地約四百坪に小公園的設備をすることになった、設備としては周圍に神社外苑に適はしき石柵を周し内部を廣場とし其一隅に兒童用遊具を備へて居る。石階下を利用せし石造便所は新しい試みである。此の五月中には工事竣工の筈である。

舊安田邸公園 (本所區横綱町二丁目)

本公園は安田善次郎翁生前の遺志に依りその邸宅全部を市政調査會に寄附せられしものを調査會より更に本市に寄附せらるゝに至つたものである、敷地四千五百餘坪建物七百餘坪を有す、本邸は元松平伯耆守の屋敷であつて、庭園約二千五百坪を占め築山、泉水等舊態の儘て現に保存せられある江戸時代林泉の一である。

本公園は未だ開園するの運びに至らず又公園としての名稱も決定し居らざるを以て茲には單に舊安田邸公園として録し置くことにせり。



(邸舊時大木乃)園公本乃

公園の現在と其の將來

東京市の公園の總數は、二十八公園四十二萬八千九百五十坪餘である。けれども其内工事中的のもの、土地丈はあつてもまだ公園の體を爲して居らぬ未成の公園が六ヶ所あるから、實際公園として現在使用されてゐるのは、二十三公園である。夫れも公園として、隅から隅まで民衆の爲めに公開されてゐるのではない。日比谷公園などは、四萬九千七百八十餘坪が大體公園本位に殆んど全部利用されてゐるが、淺草公園は住宅其他種々な商家が尠ならず軒を並べて居る。芝公園にしても、住宅と寺院とが、澤山にある。斯様な譯で、公園として公開されてゐない區域が少くない。即ち未成公園と、未公開地とを合せ十二萬四千四百二十七坪は、公園と云ふ名稱だけあつても、其の實が無いから、之を總面積の四十二萬八千九百五十坪から差引くと、實際東京市民が公園として直接利用して居る面積は、三十萬四千五百二十三坪である。尙此の外に宮内省の管理に係る上野公園十九萬五千二百二十坪があるから、東京市が管理して居る公園と合せると、總面積六十二萬四千七十坪になるが、上野公園の公開面積は、十七萬三千五百十坪であるから、公園として

て利用される全體の公開面積は四十七萬八千三十三坪になる。然し此の外にも二重橋前の廣場の一部及び目下工事中の明治神宮外苑十五萬四千七百坪、岩崎家の清任公園の四千坪の如く事實上市民が利用する事が出来るものもある又市民の直接利用する事は出来ないが間接に市民の保健上に資しつゝ、ある社寺の境内地を首めとし、官有地富豪の邸園の全區を通じて多くある事も忘れてはならぬ。

輓近、市は人口著しく増加し、住宅難を來したる爲め苟も、空地の存するものは、競て之を建築敷地に充つるの状態となつて、家屋の密集甚だしきものあるに至つた。現に大正元年には一戸の敷地平均四十五坪であつたものが、今日では、平均三十七坪に減じて居る。之れを倫敦市の一戸の敷地平均六十坪に比ぶれば、非常な差異がある。人口の密度を調査し、非衛生的状態を緩和せしむる策として、公園の増設は最も緊要な事である評りてなく、東京の様な都會地にあつては、兒童の遊戯場として、大公園よりも寧ろ小公園の必要を適切に感じられる。

歐米の都市の例 に徴するも、大都會に在つては、大小の公園は益々増設を歓迎せられる傾向にある。東京市の公園は左の表に見る如く倫敦に於ける大小公園及運動場二七八個所、ボストン

東京市の公園

市に於ける大小公園一〇八箇所、シッコロに於ける大小公園七二個所に比ぶれば、實に霄壤の差であるから一時に多数の公園を造ることは不可能であるとしても、近き將來に於て市の内外に亘りて多数の小公園を配置すると同時に市外に大公園を造る必要がある。

都 市	人 口	面 積	公園面積	市面積トノ 園面積トノ 百分比	公園千坪 當人口
大 倫 敦	七、五二、〇〇〇	五、四七、七〇〇	一九、四三、〇〇〇	四	三、七三
倫 敦	四、五二、〇〇〇	九一、五七、〇〇〇	八、一七〇、〇〇〇	九	五、五三
紐 育	五、三六、〇〇〇	二、三、二八〇、〇〇〇	九、四七二、〇〇〇	四	五、六三
巴 里	二、八四七、〇〇〇	二、三、五九七、〇〇〇	六、一七〇、〇〇〇	二六	四、五三
市 俄 古	二、三九三、〇〇〇	一、五、三三〇、〇〇〇	五、七〇〇、〇〇〇	四	四、五五
華 盛 頓	三、五三、〇〇〇	四七、〇〇一、〇〇〇	六、三九、〇〇〇	一四	五、五
東 京	二、一七三、〇〇〇	三、七〇、〇〇〇	六、〇七	市管理 一、九 總面積 二、六	三、三〇

東京は市が管理する公園のみならば、市の面積と公園との百分率は一、九、上野公園を合せても

(一九二一年調)

東京市の公園

一、六に過ぎない。されば公園千坪當りの人口は三千になる、即ち一坪を三人で使ふ割合になる。之を華盛頓の十八坪に對する一人、倫敦の二坪六合に對する一人に比すれば、逕庭の甚だしさに驚かされる。加之東京市には明治神宮外苑、其他名勝舊蹟地は別として、多数の個人の庭園は、將來都市の發展と共に空地を存しない様になり勝ちである事を推量して見ると大に公園の備を爲さねばならぬことを痛感する次第である。就中兒童本位の遊園として半經五丁位を中心とした所に一箇所を配置する位の事を實現し度い。目下は即之を計畫して居るのである。

公園は、元來が市民相偕に樂むと云ふ趣意の下に施設をしたものだが、最初は帝室なり、政府なりに依りて民衆の爲めに開設せられ人民は、其恩恵に浴したものである。然し今日では、國民又は市民の保健の爲、お互がお互の幸福の爲に是非共自發的に之を造り、之を利用しなければならぬ。即ち與へられた公園では満足することは出來ないで我々の物として進んで設け進んで利用する様に考へなければならぬ。公園は實に市民の自由庭園である。

是は公園に對する一進歩である従つて是迄の公園とは其の趣を異にして民衆の生活と密接な關係ある、切實な要求に副ふものにならなければならぬ、故に少數の特別の趣味の満足を標準として、

施設すべきではない。

又従来の公園は、晝間を主として經營して居つたが實際晝間を利用し得る人達は、極めて少の老幼、又は病者であつて、社會に活動して居る人々が、其休養時間である夜間に於て、充分之に満足を與へる丈の施設をする必要もある。

公園が民衆化されて來る事は必至の勢であり喜ぶべき事ではあるが、其利用に際し、例へば運動する場合でも、遊戯する場合でも、散策なり觀賞をする場合でも、自他共に相樂み、相妨げる事なく、他人の幸福快樂を尊重する良習慣の訓練を必要とする。勿論施設の上にも尙考慮研究をしなければならぬが、善良なる保護員を置くことが必要である。而して一般民衆をして公園の目的を諒解せしめ、其の施設を充分に利用し、自己の樂園として愛護する様にならねばならぬ。

附 録

東京市の公園

公園名	種別	總面積	道路	廣場	水面	堂地	貸付地	芝草地	植込地	摘要
日比谷		四九、七九一、五一坪	七、四四五、五三坪	四、八五〇坪	一、二二〇坪	二、〇〇〇	三二二坪	四、五三〇坪	三一、四三四、九九	
麴町		九、二四四、六三	四、一〇〇、〇〇	二、二四	一、三六	二、〇〇〇	一、四二七		五、〇三七、六三	
清水谷		三、三三八、五	三、〇〇、〇〇	七〇〇	二、三三、五		三八四		一、七〇〇、八六	
虎ノ門		二、三三九、三三		一、三五〇	三三		三	一三〇	八〇四、三三	
千鳥ヶ淵		三、八三三、〇〇	五八〇、〇〇	一、四九〇					一、七六二、〇〇	
坂本		一、七八四、二七		一、〇二〇			一三六		六三八、二七	
兩國		六、六〇、一五		五五〇					一、一〇、一五	
蠣殻町		三、九一、〇九		二五〇					一、四一、〇九	
淺草橋		六、八八、八六		三三〇					二、七八、八六	
數寄屋橋		八、一六、八八		五四〇			一八		二、五八、八八	

東京市公園面積

(大正十二年一月現在)

(本表ハ本市管理ノ公園ノミヲ掲出ス)



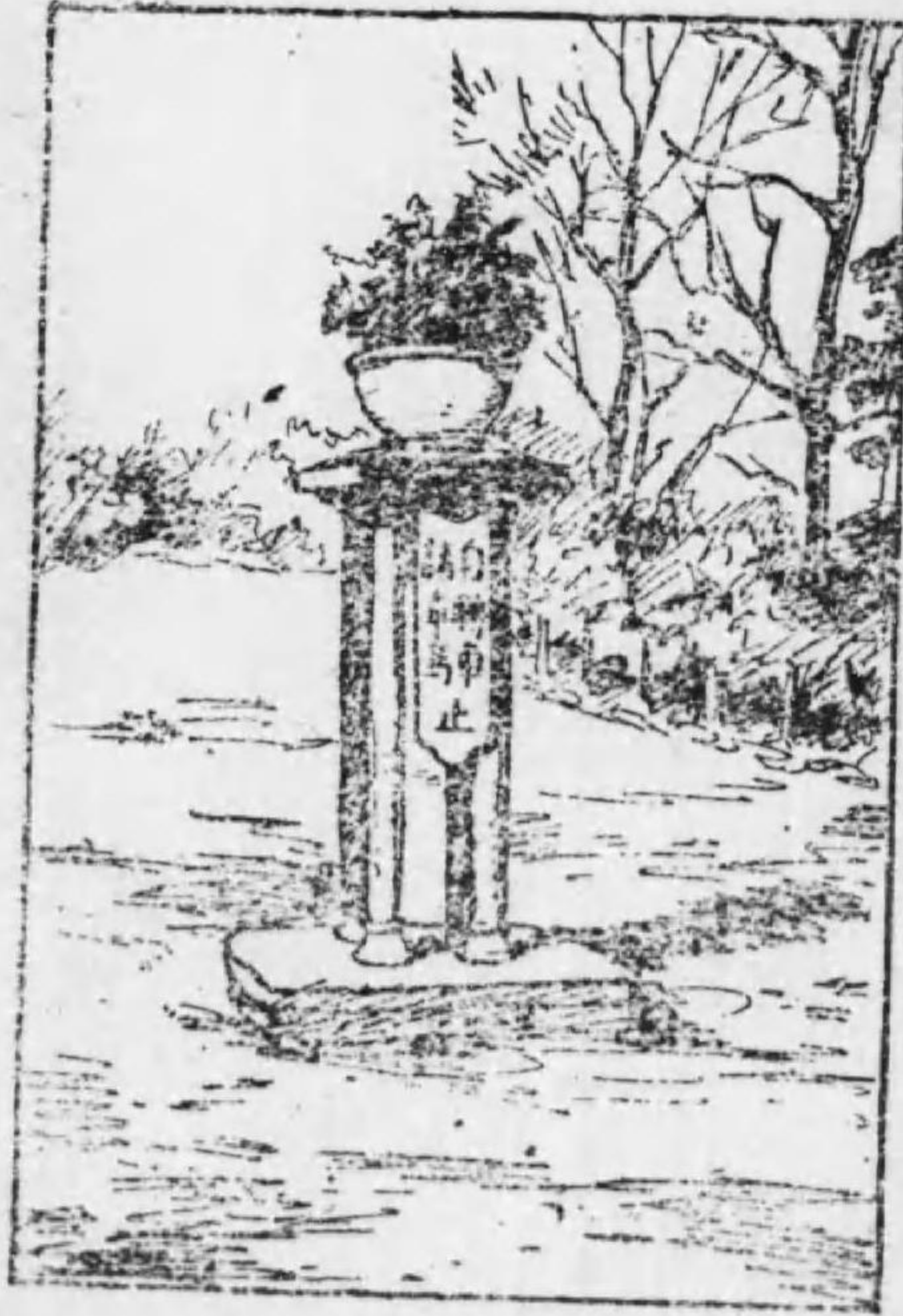
公園名	種別	樹	木	株	物	計	摘	要
日比谷	樹	一〇、四七三			二七、八七〇	三八、三四三		
麴町	樹	一、二五六			一、〇三三	二、二八九		
清水谷	樹	二、三三〇			一、九五八	四、二八八		
千鳥ヶ淵	樹	六九〇			二、一九九	二、八八九		
虎ノ門	樹	一、四八一			七三七	二、二一八		
坂本	樹	四三三			八一〇	一、二四三		
兩國	樹	二八七			五九九	八八六		

東京市公園植物一覽表

(大正十二年二月現在)

計	一八	三九	二	二	二	二〇	七	三〇	三	九	二	五	五	一九
飛鳥山														
井ノ頭														

深川	二													
若宮		二												
待乳山			二											
今戸				三										
淺草				三										
御茶ノ水				三										
湯島		二												
江戸川														
白山			二											
愛宕														
芝岩														
敷寄屋橋														
淺草橋														
繩島町														



止車の園公谷比日

飛鳥山
井ノ頭
計

二、〇五六
二四、八四八
六四、三〇三

一、九三五
一、四五一
九〇、四〇九

三、九九一
二六、二九九
一五四、七一二

深川 若宮 待乳山 今戸 淺草 御茶ノ水 湯島 江戸川 白山 愛宕 芝 數寄屋橋 淺草橋 蠣殻町

一、九三九 二二七 三三七 二八七 一、九八二 三五二 四六五 一、三六二 二六〇 六三七 一一、八九九 二六六 二五七 一六九

六、八五四 九一二 一、〇三七 七一二 四、四二九 三、四六五 四三二 三、〇五七 一、五二五 六〇一 二四、三六九 二、九三三 一、〇三一 四六〇

八、七九三 一、一四九 一、三七四 九九九 六、四一一 三、八一七 八九七 四、四一九 一、七八五 一、二三八 三六、二六八 三、一九九 一、二八八 六二九

各公園遊覽曆

二	月	一
	二十一日	初一日
梅	不動初詣	初日ノ出
見	浅草觀音堂初詣	湯島公園、愛宕山公園、芝公園丸山
	十七日	三日
	浅草觀音堂初詣	辨天詣
	芝公園	淺草公園福辨天、芝公園辨財天
	十六日	六日
	賽日(藪入)	愛宕神社神使ノ神事
	芝公園辨天池前及ビ山門前閻魔堂	愛宕公園
	浅草公園	日比谷公園
	深川公園	日比谷公園
	深川公園	日比谷公園

日比谷公園、芝公園の銀世界
深川公園、浅草公園、湯島公園

一 日	月 六		月 五	
	富士祭	十五日 二十一日	日枝神社祭禮 愛宕千日參	初旬
深川公園	愛宕公園 愛宕神社 江戸川公園、井ノ頭公園	麴町公園	淺草三社祭	日比谷公園、清水谷公園、芝公園、淺草公園、井ノ頭公園 日比谷公園、芝公園辨天池、淺草公園、清水谷公園、深川公園、淺草公園

月 四	月 三	月
八日 十七日	十日	初午
花見 釋迦誕生灌佛會 東照宮大祭	金刀毘羅神社大祭	淺草公園被官稻荷、芝公園瘡守稻荷
芝公園 淺草公園淺草寺、芝公園増上寺、日比谷公園 千鳥ヶ淵公園、白山公園、飛鳥山公園、深川公園、坂本公園、愛宕公園、清水谷公園、日比谷公園、芝公園、淺草公園、麴町公園	虎ノ門公園脇	

十月一日	十月十日	九月
十五日	十月十日 陰曆九月十三夜	二十一日 二十四日
菊 紅葉 七五三の祝	湯島天神祭禮 後ノ月見	白山神社祭禮 愛宕神社祭禮 見
日比谷公園(菊花大會) 芝公園、麴町公園、井ノ頭公園、清水谷公園、江戸川公園 麴町公園日枝神社、深川公園八幡神社 白山公園白山神社、湯島公園湯島神社	湯島公園 愛宕公園、湯島公園、待乳山公園	白山公園 愛宕公園 愛宕公園、湯島公園、待乳山公園

八月	七月
舊七月二十六日	十七日 二十一日 二十五日 二十六日
萩 二十一夜	観音四萬六千日 草 市 賽 日 蓮 入 朝 顔 納 涼
日比谷公園、芝公園、井ノ頭公園 愛宕公園、湯島公園 待乳山公園	浅草公園 浅草公園 浅草公園、芝公園 芝公園辨天池、上野公園 芝公園内苔香園 芝公園、愛宕公園、麴町公園 湯島公園、兩國公園、江戸川公園 白山公園、井ノ頭公園

道路並木と路傍小庭

道路並木は、明治四年に銀座通に松及櫻を植栽したのが嚆矢である。當時は單に我國固有の美を代表せる松及櫻が、植栽せられたものであるが、其の後明治八年に、奥都博覽會の際、偶々歐洲の街路並木の美を認め、刺槐及神樹の苗木を齎らして試植した。

十月二日	
十四、五日	深川八幡歳ノ市
十七、八日	浅草寺歳ノ市
二十四日	愛宕神社歳ノ市
二十五日	天神歳ノ市
雪	見
	待乳山公園、愛宕公園、芝公園、麴町公園、湯島公園、日比谷公園、井ノ頭公園

同十一年には、皇城濠池端に柳の挿木を爲し、爾來年々柳を主として、梧桐、櫻、槐の植栽を實行して來たが、植栽方法の不備と、之れが管理の不充分の爲め、追々衰微して、或るものは却つて市街の風致を損する様になつて來た、當時の識者は、深く是れを憂ひ、遂に明治四十年に、根本的改良の議を起し、學者の意見に基き、歐米諸國の實例を探り、道路並木として適當な樹種を選定すると同時に、植栽方法を制定し、苗木の育成から始める事になり、明治四十三年以降、新計畫の下に、逐年植付ける事になつた。

第一期の計畫は、大正八年に異ほ終り、現在では、道路の改良に伴ふ少數の新植の外は、主として補植を實行して居る。

植栽樹種、明治四十年には規定樹として、十二種を採用したが、實驗の結果、水木、赤芽柏は、成蹟不良の爲めに除く事とし、之れに代ふるに櫻槐を加へ、現在は、公孫樹、篠懸木、梧桐三角楓、百合木、七葉樹、櫻、櫻桃、槐、柳、櫻の十一種を採用して居る。

然し柳は發達した近代の莊重にして、且整然たる都市の建築物や舗裝せられた路面等には最早不調和に爲つたので、是れが新植を廢し、櫻も市街の並木としては、管理と調和上から又樹其も

のが外來の障害に對し抵抗力が薄弱な關係と落花後の容姿の醜いのから特に櫻の名所となつて居る處の外は植栽しない事とした。

植栽種別並本數、現在は幅員十間以上(三等道路以上)の歩車道の別ある道路には、全部四間を標準として、植栽されて居る。其の總數は二萬四千八百四十八本で、之れが内譯は、次の通りである。(但大正十二年一月現在)

公孫樹	五、四六一	篠懸木	五、八二六
梧桐	二、九一四	三角楓	一、八六八
百合木	一、一三五	七葉樹	九五九
榉	一、三一一	槐	二九四
櫻	二、三二〇	柳	一八六六
櫻	二、三五八	其他	六三五

各樹種に就いて、最も主要な路線を示せば

公孫樹 市役所前—馬場先門、神田區須田町—九段下—芝口—銀座—上野—淺草

柳はこの外河岸地其他處々に残つてゐるが、普通街路では、追々他の樹種に更新せられつつある。樹種は以上の外刺槐、神樹、三葉楓などがあるが其の數は甚だしい。

篠懸木	芝區芝口—赤坂見付、麴町區大手町—永代橋、大手町内務省前通り
梧桐	赤坂區青山通り
三角楓	麴町區半藏門—新宿間
百合木	麴町區大手門—日比谷—三田、日比谷公園北側
七葉樹	麴町區櫻田門外—霞ヶ關下
榉	麴町區飯田橋通り、芝區三田通り
槐	神田區鎌倉河岸—雉子橋
櫻	麴町區三宅坂—半藏門
櫻	麴町區三宅坂—赤坂見附、江戸川河岸、外濠各見付鴨ノ首
柳	皇城内濠端

苗圃 植栽用の苗木は凡て市所有の苗圃口で直營栽培をして居る。而うして高さ十二尺、目通周り六寸位の大きさに達して、始めて道路に植出される。それ迄に要する年限は樹種に依つて異なるが、最も晩きものは槐と公孫樹で十年以上を要し、最も速いものは篠懸木で、五年を要し梧桐は之れに亞ぐ。現在の苗圃は、羽根澤、野方、雜司ヶ谷、三河島の四ヶ所で、總坪壹萬五千坪を有し、育成中の苗木は貳萬八千餘本である。

經費 苗圃で道路植栽に適する大きに育成する迄の費用は一本に付約六拾錢道路植付費は（控木材料其他工賃共）參圓五拾錢乃至四圓。培養（保護手入）費一本に付平均年額六拾錢。

植栽後の管理 之れは凡て、市公園課で管掌して居る。整枝剪定は冬期即ち樹木の休眠期に行ひ、徒長枝葉の刈込は、大抵夏期梅雨後土用までに實施して居る。病蟲害に對しては、石油乳劑、銅石鹼液、酸曹液等を以て驅除豫防し、風害に對しては被害の憂あるものに對しては控木副竹等を施し、又施肥、灌水は、樹種に依り夫々實行して居る。

此等の管理には、常備工夫を置き、人夫を役使して順次作業し、突發した災害に對しては、各區役所道路掛所屬の工夫を以て、應急處理を爲さしめ、順次公園課に於て、復舊の方策を講ずる

事になつてゐる。

危害 危害の内最も大きなものは、暴風雨で大正六年大正九年の大暴風等には、全市に亘り甚しい被害を蒙つた事がある。瓦斯漏洩、旱魃其他道路埋設物工事道路改修等に依つて、年々三乃至五%位の枯損を生じ、毎年之れが補植を必要としてゐる。

市民に對しては各路線の主要部に樹名を記してその傍に『道路樹木を大切にして下さい、並木は市の美觀と吾々の健康の爲めに植ゑられて居るので、お互に保護して立派に育てませう。何か變つた事があつたら、お知らせ下さい』といふ様な揭示板を建て、樹木保護を宣傳し、一般市民の愛樹心を喚起するに努めて居る。

道路植込地 現在東京市には、特に路傍小庭と稱し得るものは少いが、橋臺地、街頭便所、巡查派出所並に詰所、撒水唧筒小舎等の附近に落葉樹の外に、常綠喬木並灌木を、風致的に配植し、或るものは半ば公園的の施設を爲して居る。而うして此等を一括して、『道路植込地』と稱し、道路樹木の變態として取扱つて居る。

此等は元廣義の道路樹木として、一般の並木と共に取扱つて居たが、近來追々都市計畫に基く

道路改正に伴ひ、路傍に空地の生ずる事多く、又橋梁改築に依る橋臺餘地の存置等が實施されるので、其れ等を利用し樹木を植栽し街路を美化し公園の缺を補ふの必要から、特に之を獨立せしめ並木と共に公園の延長として、都市装景上重要な位置を占める様になつて來た。現在、植込地として取扱つてゐるのは總坪三千八百坪で、其れに屬する種類並に箇數は次の通りである。

路傍小庭	六ヶ所	橋臺植込地	三〇ヶ所
街頭便所植込地	五二	巡查派出所並詰所附近植込地	三八三
材料置場附近同	一五	撒水唧筒小舎附近同	二五
警察署同	八	人道會飲水場同	六
塵芥置場同	四	植樹帶同	一

而して、植栽樹種は、落葉樹は道路並木と同様なものを用ひ、常綠喬木としては、クロマツ、ヒノキ、シヒ、モチ、ネヅミモチ、サンゴジュ、等て、灌木としては、ヤツデ、アヲキ、ヒ、ラギナンテン、ケフチクトウ、ツ、ジ類等を用ひ、下草には高麗芝、龍ノ鬚等を採用して居る。

植込は、路傍空地、橋臺地の如く多少餘裕のある場所は、半ば公園的に清洒な植込を設け簡單

な柵を圍し、場所に依つては、露床を設くるも、街頭便所等にあつては、其の周圍は半ば陰蔽的に植栽し、出入口には、多少の趣を添へる様にす。然し近來設置されつゝある如き、相當な外觀美を有するものに對しては、之を陰蔽する事なく極く清楚な植栽に依つて其の外觀を一層美化せしめる。巡查派出所の附近等は殆んど植栽の餘裕がない爲め、單に落葉喬木を植ゑ綠陰を作るに止めて居る。此等の植込に就いては、總て環境の景致に留意し、之れが調和に重きを置いて居る。又道路並木の植栽されて居る部分を、帶狀に區劃し、之れを植樹帶と稱へ、其の根元に芝を張り、更に灌木、草花等を配置するものがある。即ち植樹帶植込地である。

以上の如く現在に於ては、道路植込地は未だ少いが、將來は逐次増設する計畫で、やがては道路公園の端緒を開くものである。是亦總て市公園課の所管に屬し、常備工夫並人夫を以て、維持監理せしめて居る。

(終)

大正十二年三月三十日印刷
大正十二年四月一日發行



發行所

東京市役所

公園課編纂

印刷所

嵩

山

房

右代表者 小林新兵衛
神田區錦町三丁目三番地

514
97

終

